

令和4年度全国学力・学習状況調査

本県の結果と今後の対策

【小学校】

令和4年11月30日

青森県教育庁学校教育課

令和4年度全国学力・学習状況調査 本県の結果と今後の対策【小学校】

目 次

I 全体概要	1
1 調査の概要	1
2 教科ごとの状況	1
3 質問紙調査結果から見える要因	2
II 国語	3
1 教科全体の結果	3
2 領域別の正答率	3
3 問題別集計結果	4
4 問題別集計結果の状況	5
5 児童質問紙調査の結果から見える本県児童の状況	6
6 学校質問紙調査の結果から見える国語の指導状況	7
7 指導改善のポイント	7
＜令和3年度県学習状況調査を踏まえて（国語）＞ 8	
III 算数	11
1 教科全体の結果	11
2 領域別の正答率	11
3 問題別集計結果	12
4 問題別集計結果の状況	13
5 児童質問紙調査の結果から見える本県児童の状況	15
6 学校質問紙調査の結果から見える算数の指導状況	16
7 指導改善のポイント	17
＜令和3年度県学習状況調査を踏まえて（算数）＞ 18	
IV 理科	20
1 教科全体の結果	20
2 領域別の正答率	20
3 問題別集計結果	21
4 問題別集計結果の状況	22
5 児童質問紙調査の結果から見える本県児童の状況	24
6 学校質問紙調査の結果から見える算数の指導状況	25
7 指導改善のポイント	26
＜令和3年度県学習状況調査を踏まえて（理科）＞ 28	
V 質問紙調査	29
1 児童質問紙調査の結果と今後の対策	29
2 学校質問紙調査の結果と今後の対策	35

* 本報告書の活用にあたって *

本報告書は、本調査の結果を受けて、本県の学習指導上の課題を明らかにし、県内の各学校が今後とるべき対策の参考となる事柄を示すことを主なねらいとして作成したものです。

本報告書の活用にあたっては、各教科・科目の結果だけでなく、質問紙調査の結果についても、自校の結果と比較しながら、今後の指導の改善に役立てていただきたいです。

なお、本調査の結果の概要や正答数の分布、全ての小問の正答率等については、文部科学省から配布された『令和4年度全国学力・学習状況調査【小学校】又は【中学校】調査結果』（ダウンロード版）を参照してください。

また、国立教育政策研究所のホームページに、文部科学省の報告書や調査結果を踏まえた「授業アイデア例」が掲載されていますので、併せて活用してください。

* 本報告書の用語や記号等について *

本報告書中の用語や記号等については、次のような意味で使用しています。

「全国平均との差」

：「今年度の本県の平均正答率－今年度の全国の平均正答率」の式で求めた値。本県が全国を上回っていれば「+」、また、下回っていれば「-」で表示しています。

「前年度との差」

：「今年度の本県の平均正答率－令和元年度の本県の平均正答率」の式で求めた値。今年度が令和元年度を上回っていれば「+」、また、下回っていれば「-」で表示しています。

「過年度との差」

：隔年で質問されている項目へ対応するため、「今年度の本県の平均回答率－令和3・平成31・30・29年度の本県の平均回答率」の式で求めた値。今年度が平成30年度を上回っていれば「+」、また、下回っていれば「-」で表示しています。

※本県の平均正答率は「%」で、過年度との差については「ポイント」で表しています。

「□」：概況を示しています。

「▼」：課題を示しています。

「◆」：今後の方向性や対策・指導等を示しています。

「★」：肯定的な回答と教科の相関があることを示しています。

「数字」：本県の平均正答率が、対比している値に対して5ポイント以上上下回っていることを示しています。

I 全体概要

I 調査の概要

(1) 調査実施日

令和4年4月19日(火)

(2) 調査内容(教科、質問紙調査)

① 教科

小学校 国語(45分) 算数(45分) 理科(45分)

中学校 国語(50分) 数学(50分) 理科(50分)

② 質問紙

児童生徒質問紙調査

学校質問紙調査

(3) 参加公立学校数

小学校参加校数 本県 250校(全国 18,671校)

中学校参加校数 本県 148校(全国 9,348校)

(4) 参加児童生徒数

小学校児童数 本県 8,314名【国語】(全国 965,308名)

8,308名【算数】(全国 965,431名)

8,311名【理科】(全国 965,761名)

中学校生徒数 本県 8,388名【国語】(全国 891,820名)

8,391名【数学】(全国 891,913名)

8,393名【理科】(全国 892,585名)

2 教科ごとの状況

本県の公立小・中学校の児童生徒の学力の状況は、全ての教科で、平均正答率が全国平均を上回るか同程度であり、概ね良好な状況にあります。

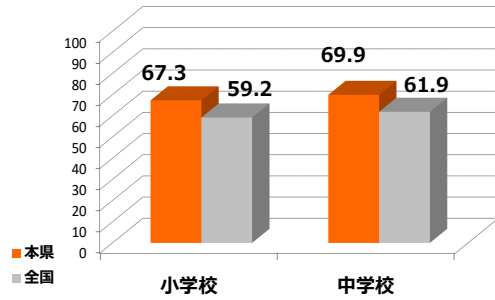
	令和4年度	
	平均正答率(%)	
	青森県(公立)	全国(公立)
小学校国語	68	65.6
小学校算数	63	63.2
小学校理科	66	63.3
中学校国語	69	69.0
中学校数学	52	51.4
中学校理科	49	49.3

3 質問紙調査から見える要因

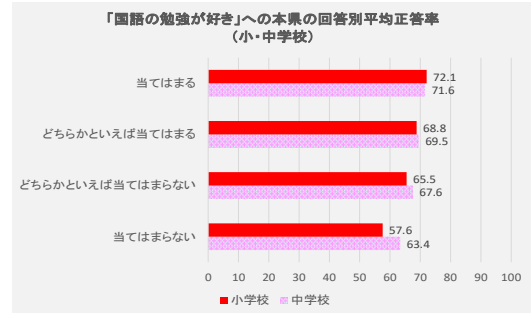
ここでは、本県の調査結果に係る要因の1つとして「各教科に対する興味・関心について」を取り上げます。その他の要因については、各教科の頁を参照してください。

要因につながるデータ

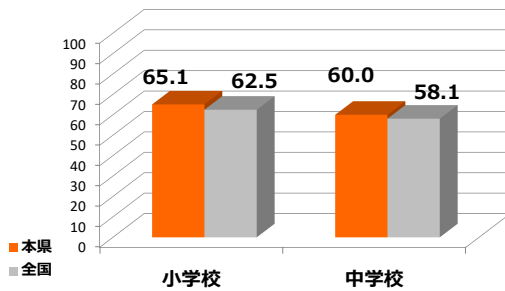
【国語の勉強は好きか】



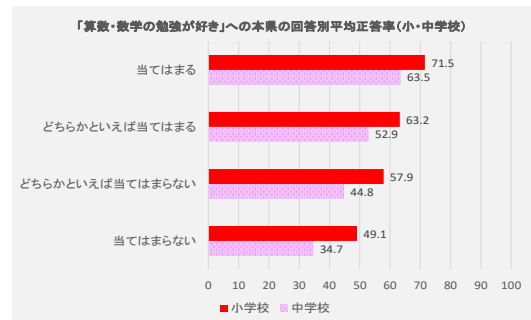
【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童生徒の割合(%)】



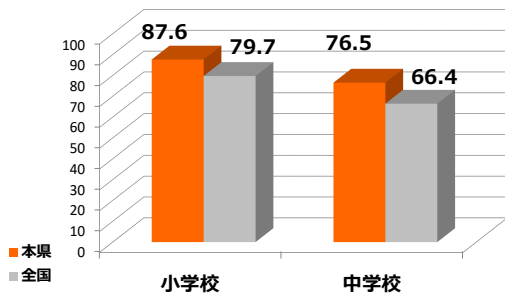
【算数・数学の勉強は好きか】



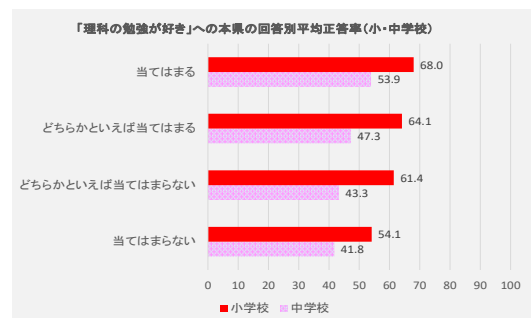
【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童生徒の割合(%)】



【理科の勉強は好きか】



【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した生徒の割合(%)】



- 本県の児童生徒は、各教科の学習に対する興味・関心が全国平均を上回っている。
- 各教科の学習に対する関心が高い児童生徒は、各教科における平均正答率も高い傾向にある。
- ◆今後も、児童生徒の各教科の学習に対する興味・関心を高める働きかけを工夫するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進め、知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成に努めることが肝要である。

II 国語

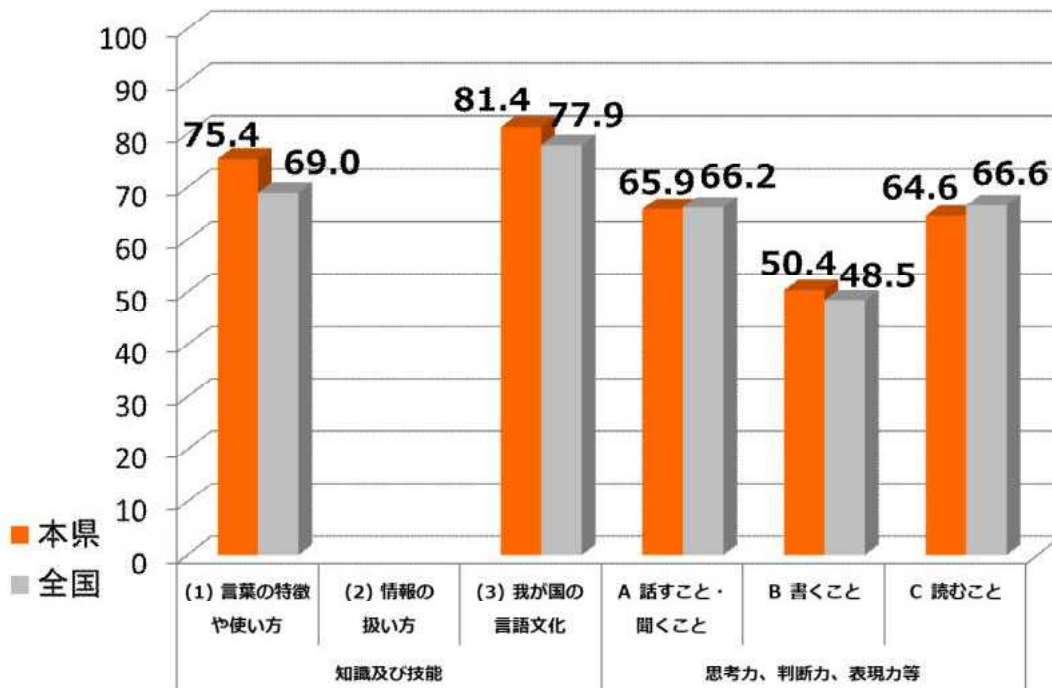
I 教科全体の結果

国語の平均正答率 (%)		
青森県	全国平均との差	令和3年度全国平均との差
68	+2.4	+4.3

□ 国語全体としては、本県は、全国平均をやや上回っている。

2 領域別の正答率

分類	区分	平均正答率 (%)			
		青森県	全国平均との差	令和3年度全国平均との差	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	75.4	+6.4	+7.1
		(2) 情報の扱いに関する事項			
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	81.4	+3.5	
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	65.9	-0.3	+0.2
		B 書くこと	50.4	+1.9	+6.0
		C 読むこと	64.6	-2.0	+0.8
評価の観点	知識・技能	76.4	+5.9	+7.1	
	思考・判断・表現	61.4	-0.6	+1.8	
	主体的に学習に取り組む態度				



- 「知識及び技能」及び「書くこと」については、全国平均を上回っている。
 □ 「話すこと・聞くこと」及び「読むこと」については、全国平均をやや下回っている。

3 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率(%)		
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	青森県(公立)	全国(公立)	全国(公立)との差
			(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2) 情報の扱い方に 関する事項	(3) 我が国の言語文化に 関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと									
1一	【話し合いの様子の一部】における谷原さんの発言の理由として適切なものを選択する	話し言葉と書き言葉との違いを理解する	5・6 イ						○			○			86.7	85.5	1.2
1二	【話し合いの様子の一部】における谷原さんや中村さんの発言の理由として適切なものを選択する	言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える	5・6 ア						○			○			88.9	88.8	0.1
1三	【話し合いの様子の一部】で、中村さんが前田さんに質問し、知りたかったことの説明として適切なものを選択する	必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える				3・4 エ			○			○			84.1	84.7	-0.6
1四	「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、 <input type="text"/> でどのように話すかを書く	互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる				5・6 オ			○			○			47.7	47.7	0.0
2一 (1)	「ぼく」の気持ちの説明として適切なものを選択する	登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える				3・4 イ			○			○			67.0	68.4	-1.4
2一 (2)	「老人」が未来の「ぼく」だと考えられるところとして適切なものを選択する	登場人物の相互関係について、描写を基に捉える				5・6 イ			○			○			68.6	70.6	-4.0
2二	物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】の <input type="text"/> A <input type="text"/> に入る内容を書く	人物像や物語の全体像を具体的に想像する				5・6 エ			○			○			68.2	68.3	-0.1
2三	【山村さんの文章】の <input type="text"/> B <input type="text"/> に入る内容として適切なものを選択する	表現の効果を考える				5・6 エ			○			○			56.7	59.2	-2.5
3一	【文章2】の <input type="text"/> の部分、どのように気に付けて書いたのか、適切なものを選択する	文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える				5・6 オ			○			○			59.5	59.2	0.3
3二	【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける				5・6 カ			○			○			41.2	37.7	3.5
3三ア	【文章2】の中の——部アを、漢字を使って書き直す(ろくが)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う	5・6 エ						○			○			74.6	65.2	9.4
3三イ	【文章2】の中の——部イを、漢字を使って書き直す(はんせい)		5・6 エ						○			○			71.1	58.7	12.4
3三ウ	【文章2】の中の——部ウを、漢字を使って書き直す(したしむ)		5・6 エ						○			○			75.6	67.1	8.5
3四	(一)から(二)に書き直した際、気を付けた内容として適切なものを選択する	漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く				3・4 エ(イ)			○			○			81.4	77.9	3.5

4 問題別集計結果の状況

○良好であること

○知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

- ・「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」

(【3三イ】対全国比：+12.4、【3三ア】対全国比：+9.4、
【3三ウ】対全国比：+8.5)

(3) 我が国の言語文化に関する事項

- ・「漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く」

(【3四】対全国比：+3.5)

○書くこと

- ・「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける」

(【3二】対全国比：+3.5)

▼課題であること

※全国平均を下回っているもの

▼読むこと

- ・「登場人物の相互関係について、描写を基に捉える」

(【2一(2)】対全国比：-4.0)

- ・「表現の効果を考える」

(【2三】対全国比：-2.5)

- ・「登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える」

(【2一(1)】対全国比：-1.4)

学習指導に当たって

読むこと

- ・物語の一部分だけを取り上げて登場人物の相互関係について考えるのではなく、物語全体を通して、相互関係について描かれている複数の描写に着目しながら読むことができるように指導する。
- ・表現の効果を考えることができるようにするためには、感動やユーモアなどを生み出す優れた叙述、暗示性の高い表現、メッセージや題材を強く意識させる表現などに着目して読むことを指導する。
- ・登場人物の行動や気持ちを捉えることが必要となる言語活動を設定し、物語全体を見通して、複数の叙述を基に行動や気持ちを捉えることができるようにするとともに、「どこからそう思ったのか」など、捉えたことの基になる叙述を明らかにすることを指導する。
- ・登場人物の人物像を具体的に想像するためには、登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付け、それらを基に性格や考え方などを総合して判断することができるように指導する。
- ・物語の全体像は、登場人物や場面設定、個々の叙述などを基にした物語の世界や人物像などを豊かに想像したり、登場人物の相互関係を手掛かりにして考えたりすることができるように指導する。

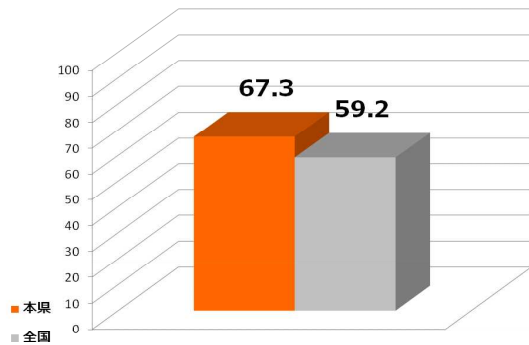
話すこと・聞くこと

- ・実際の授業場面において、質問するだけに終始せず、質問して分かったことを踏まえて形成した自分の考えを表現できるように指導する。
- ・聞いたことについて、第1学年及び第2学年においては感想をもつこと、第3学年及び第4学年においては自分の考えをもつこと、第5学年及び第6学年においては話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることを系統的に指導する。

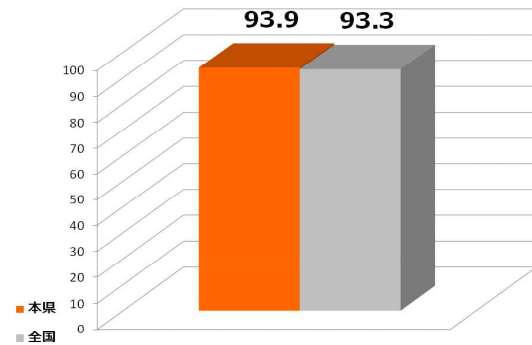
5 児童質問紙調査の結果から見える本県児童の状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童の割合(%)】

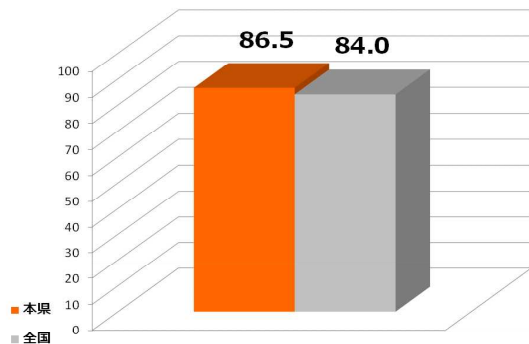
【(49) 国語の勉強は好きか】



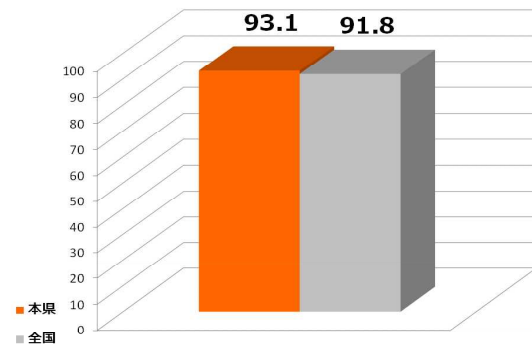
【(50) 国語の勉強は大切か】



【(51) 国語の授業はよく分かる】



【(52) 国語の授業で学習したことは、将来役に立つと思う】



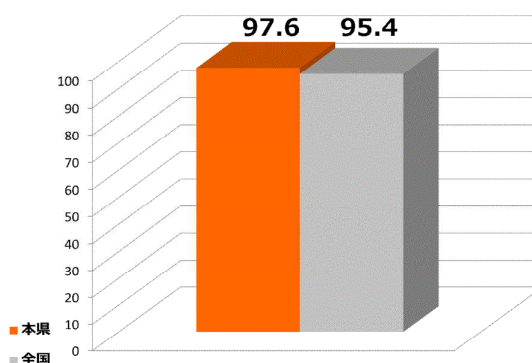
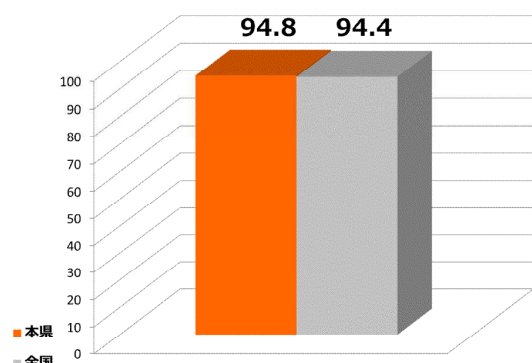
- 児童の国語学習に対する興味・関心や授業の理解度等は概ね良好な状況にあり、国語の勉強が好きだと思う児童は全国平均を上回っている。
- 約9割の児童が、国語の勉強は大切であり、国語の授業で学習したことは、将来役に立つと考えている。

6 学校質問紙調査の結果から見える国語の指導状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した学校の割合（％）】

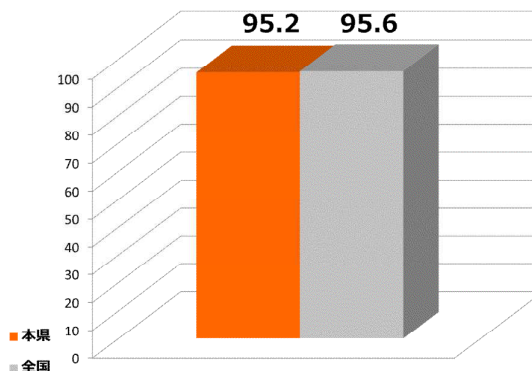
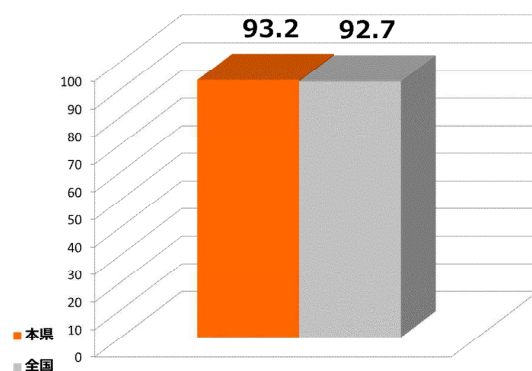
【(39) 言葉の特徴や使い方を理解したり使ったりする授業を行った】

【(40) 目的に応じて考えを話したり質問したりする授業を行った】



【(41) 目的に応じて考えと理由を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行った】

【(42) 目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり考えを広げたりする授業を行った】



□教員の国語指導に対する取組の意識は全国平均と同程度である。

▼目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり考えを広げたりする授業を行った割合が全国平均を0.4ポイント下回っている。

7 指導改善のポイント

(1) 各領域について《令和4年度 全国学力・学習状況調査 報告書より》

[知識及び技能]

言葉の特徴や使い方に関する事項

◆ 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える指導の充実

- 言葉には、話し手と聞き手の間に好ましい関係を築き、継続させる働きがある。話合いにおいては、相手とのつながりをつくる働きのある言葉を適切に用いながら、話合いを進めていくことが大切である。言葉の働きに気付くことができるようにするためには、振り返りの場面などで、自分たちの話合いの様子を確かめる活動を設定することが効果的である。

[思考力、判断力、表現力等]

話すこと・聞くこと

◆ 互いの立場を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる指導の充実

- ・ 「考えをまとめる」とは、話し合いを通して様々な視点から検討し、互いの意見の共通点や相違点、利点や問題点等をまとめることである。考えをまとめる際には、異なる意見を自分の考えに生かせるように「～という意見もあったが」、「～という考えもあるけれど」などの表現を用いられるようにすることが大切である。話し合いの目的や方向性を検討する場面を設定したり、話し合いの展開や内容を踏まえて互いの意見を整理する方法を指導したりすることが効果的である。

書くこと

◆ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える指導の充実

- ・ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えるとは、「題材の設定、情報の収集、内容の検討」、「構成の検討」、「考えの形成、記述」の指導事項を観点として、文や文章を推敲することである。指導事項の系統性を踏まえて、推敲する観点を明確にすることが大切である。相手や目的を明確にして児童自らが推敲する必要性を実感して書くことができる言語活動を設定したり、[知識及び技能]の(1)ウの表記の仕方や使い方に関する指導事項と関連を図って指導したりすることが効果的である。

◆ 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける指導の充実

- ・ 文章に対する感想や意見を伝え合うとは、互いの書いた文章を読み合い、目的や意図に応じた文章の構成や展開になっているかなどについて、感想や意見を述べ合うことである。このことを通して、自分の文章のよいところを見付けることができるように指導することが大切である。目的や意図を相手に伝えたり、感想や意見を具体的に伝えたりする指導が効果的である。

読むこと

◆ 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする指導の充実

- ・ 物語の全体像は、登場人物や場面設定、個々の叙述などを基に、その世界や人物像などを豊かに想像することで捉えられる。また、表現の効果を考えると、想像した人物像や全体像と関わらせながら、様々な表現が読み手に与える効果について自分の考えを明らかにしていくことである。「何が書かれているか」という内容面だけでなく、「どのように描かれているか」という表現面にも着目して読むことが大切である。物語全体を捉えられるようにしたり、着目した複数の叙述を基に考えたことを交流する場面を設定したりすることが効果的である。

(2) 質問紙調査の結果を踏まえて

児童質問紙

◆ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する指導及び読書の充実

- ・ 「読書が好きだ」
「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」
「国語の授業の内容はよく分かる」
「今回の国語の問題では、全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」
このように回答している児童の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られ、本県は4問中3問で全国平均を1～5ポイント上回っている。しかし、「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てな

どを工夫して発表していた」の質問は全国平均を1.3ポイント下回った。

今後は資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する指導を充実させていくことが大切である。また、読書は国語科で育成を目指す資質・能力をより高める重要な活動の一つであることから、[知識及び技能]の「読書」に関する事項との関連を図り、児童の日常の読書活動に結び付くようにすることが重要である。

学校質問紙

◆ 話すことに関する指導事項と聞くことに関する指導事項との関連を図った指導の充実

・ 「調査対象学年の児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思う」

「調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思う」

このように回答している学校の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られるが、本県は1～5.1ポイント下回っている。話し合いは、話すことと聞くことが交互に行われる言語活動であり、それぞれの児童が話し手でもあり聞き手でもある。話し合いの過程では、「話すこと」と「聞くこと」に関する資質・能力が一体となって働くため、指導に当たっては、話すことに関する指導事項と聞くことに関する指導事項との関連を図ることが重要である。

国語科の指導方法に関する質問事項については、4問中全ての質問において9割を超えており、概ね良好な状況である。

〈令和3年度県学習状況調査を踏まえて（国語）〉

令和3年度県学習状況調査実施報告書において、本県の小学生は「読むこと」に課題があると分析した。

説明的な文章については、接続語の役割を理解していないことや、各段落の内容を把握して段落相互の関係を的確に捉え、それにふさわしい接続語を指摘する力が不足していることが考えられる。今後の指導に当たっては、段落相互の関係に着目しながら接続語の役割について考えることができるよう、児童自身が必要感をもてるような言語活動の工夫が大切である。その際には、説明的な文章において、各段落の要点を押さえる活動と同時に、接続する語句の役割についての理解を基盤に、文と文との関係、話や文章の構成や展開などについて理解させることが大切である。また、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」と関連させて指導することも必要である。

また、文学的な文章については、登場人物の気持ちが叙述に直接表現されていない場合、行動や会話などの複数の叙述を関連付けて登場人物の気持ちを捉える力が不足していることが考えられる。今後の指導に当たっては、登場人物の行動や気持ちなどについて、物語全体を見通して、複数の叙述を基に捉えさせることが大切である。登場人物の気持ちは、場面の移り変わりの中で揺れ動いて描かれることが多いため、複数の場面に描かれた行動や会話に関わる叙述を結び付けたり、一つの叙述だけではなく複数の叙述を根拠にしたりすることで、より具体的に登場人物の行動や気持ちなどを思い描くことができる。その際には、内容について説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする言語活動の充実が大切である。

【令和3年度県学習状況調査実施報告書より】

令和4年度全国学力・学習状況調査では、「読むこと」については4問出題され、全ての問題において全国平均をやや下回る結果となった。県の平均正答率は64.6%と全国平均を2ポイント下回っている。

今後の指導に当たっては、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えさせることが必要である。登場人物の相互関係や心情などには、登場人物の性格や情景なども含まれる。描写とは、物事の様子や場面、行動や心情などを、読み手が想像できるように描いたものである。

第5学年及び第6学年においては、描写に着目しながら読み進めていくことが重要である。登場人物の心情は、直接的に描写されている場合もあるが、登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されている場合もある。このような表現の仕方にも注意し、想像を豊かにしながら読むことが大切になる。また、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることは、「エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。」につながる。

※授業改善の具体例

以下の資料を併せて参照してください。

- ・令和3年度県学習状況調査実施報告書
- ・令和4年度全国学力・学習状況調査報告書
- ・令和4年度全国学力・学習状況調査報告書の結果を踏まえた授業アイデア例

Ⅲ 算数

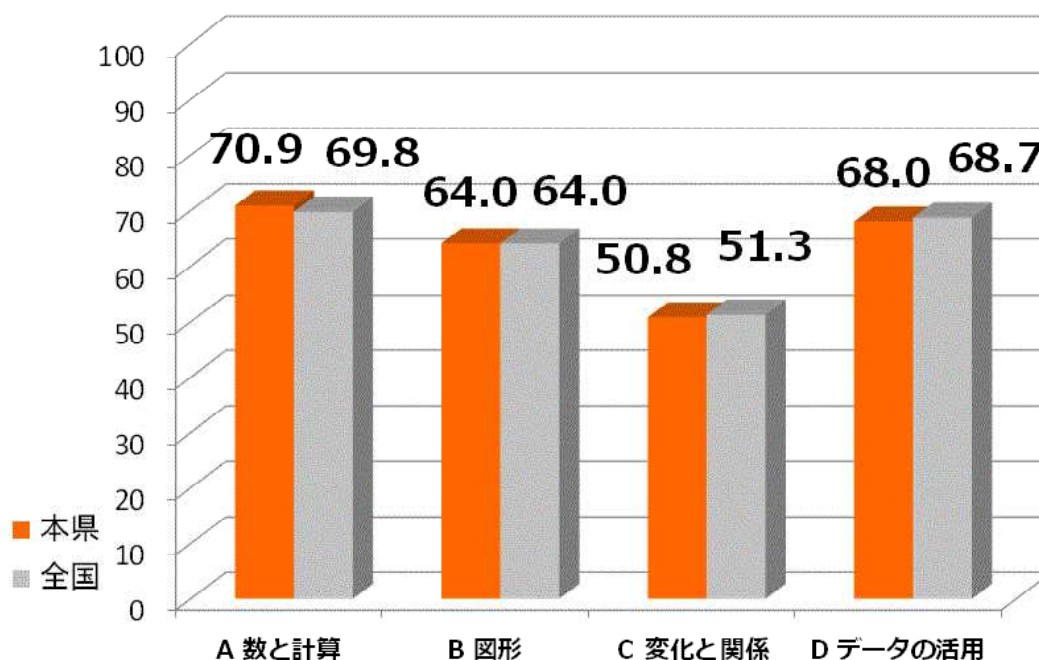
1 教科全体の結果

算数の平均正答率 (%)		
青森県	全国平均との差	令和3年度全国平均との差
63	-0.2	+0.8

□ 算数全体としては、本県は、全国平均と同程度である。

2 領域別の正答率

分類	区分	平均正答率 (%)		
		青森県	全国との差	令和3年度全国との差
学習指導要領の領域	A 数と計算	70.9	+1.1	+2.4
	B 図形	64.0	±0.0	+4.0
	C 測定			+1.2
	C 変化と関係	50.8	-0.5	+0.2
	D データの活用	68.0	-0.7	-0.6
評価の観点	知識・技能	68.3	+0.1	+1.0
	思考・判断・表現	56.7	±0.0	+1.5
	主体的に学習に取り組む態度			



□ 全ての領域において、全国平均と同程度である。

3 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率(%)			
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	青森県(公立)	全国(公立)	全国(公立)との差	
1(1)	1050×4を計算する	被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる	3(1) 7(7) 3(3) 7(4) 4(7) 7(7)					○				○			91.9	92.4	-0.5
1(2)	14と21の最小公倍数を求める	二つの数の最小公倍数を求めることができる	5(1) 7(4)					○					○		74.6	72.2	2.4
1(3)	カップケーキ7個分の値段を、1470÷3で求めることができるわけを書く	示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる	3(4) 4(7) 4(3) 7(4)					○					○		81.1	76.0	5.1
1(4)	85×21の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ	示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる	4(2) 4(7)					○				○			31.4	34.8	-3.4
2(1)	果汁が25%含まれている飲み物の量を基にしたときの、果汁の量の割合を分数で表す	百分率で表された割合を分数で表すことができる				5(3) 7(4)		○					○		74.4	71.1	3.3
2(2)	果汁が40%含まれている飲み物の量が1000mLのときの、果汁の量を書く	百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる				5(3) 7(4)		○					○		62.1	64.6	-2.5
2(3)	果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ	示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している				5(3) 7(4)		○				○			17.9	21.4	-3.5
2(4)	果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180mL入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる				5(1) 4(7)		○					○		48.6	48.0	0.6
3(1)	表のしりとり欄に入る数を求める式と答えを書く	表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる	4(4) 7(7)					○					○		77.4	75.3	2.1
3(2)	分類整理されたデータから、全員の希望が一つは違えるように、遊びを選ぶ	分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる				3(1) 4(7)		○				○			60.4	63.9	-3.5
3(3)	1年生と6年生が希望する遊びの割合を調べるためのグラフを選び、そのグラフから割合が一番大きい遊びを選ぶ	目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる				5(1) 7(7)		○				○			66.2	66.8	-0.6
3(4)	1年生の希望をよりかなえるためのポイント数の求め方と答えを書く	加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる	4(4) 7(7) 4(7)					○					○		69.1	67.7	1.4
4(1)	示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す	正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる	3(1) 7(7) 4(5) 7(7) 4(7)					○					○		48.7	48.8	-0.1
4(2)	長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く	図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している	2(1) 7(4)					○					○		84.0	83.2	0.8
4(3)	辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかくことができるプログラムを選ぶ	図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している	4(1) 7(4)					○				○			65.8	66.5	-0.7
4(4)	示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ	示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる	4(1) 7(4) 4(7)					○					○		57.5	57.6	-0.1

4 問題別集計結果の状況

○良好であること

○A数と計算

- ・二つの数の最小公倍数を求めることができる。

（【1（2）】対全国比：+2.4）

○A数と計算

- ・示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる。

（【1（3）】対全国比：+5.1）

○C変化と関係

- ・百分率で表された割合を分数で表すことができる。

（【2（1）】対全国比：+3.3）

○A数と計算 Dデータの活用

- ・表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる。

（【3（1）】対全国比：+2.1）

○A数と計算

- ・加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる。

（【3（4）】対全国比：+1.4）

▼課題であること

▼A数と計算

- ・示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる。

（【1（4）】対全国比：-3.4）

▼C変化と関係

- ・百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる。

（【2（2）】対全国比：-2.5）

- ・示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している。

（【2（3）】対全国比：-3.5）

▼Dデータの活用

- ・分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる。

（【3（2）】対全国比：-3.5）

▼B図形

- ・図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している。

（【4（3）】対全国比：-0.7）

学習指導に当たって

A 数と計算

- ・ 目的に合った数の処理の仕方を考えることができるようにする。【1 (4)】
日常生活において、数の大きさを見積もる必要があるときは、目的に応じて数を大きくみたり小さくみたりして、概算できるようにすることが重要である。その際、概数にする方法である切り上げ、切り捨て、四捨五入を用いて計算し、どの方法が適切であるかを判断できるようにすることが大切である。
指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、1個入り85円のカップケーキ21個分の値段と、Bセット1箱分の値段である1470円では、どちらの方が高いかを予想し、確かめる活動が考えられる。確かめる際には、 85×21 を計算し、1個入り85円のカップケーキ21個分の値段を求めて1470円と比較するだけでなく、 85×21 の85と21を概数にして見積もり、1470円より必ず高くなることを判断できるようにすることが必要である。概数にして見積もる際には、概数にして計算した結果と、実際の数の積との大小関係について話し合うことが考えられる。その際、下の図のように、 85×21 の答えが1470より必ず大きくなることが分かるためには、85と21の一の位の数を切り捨てて計算する必要があることを見いだすことができるようにすることが大切である。

B 図形

- ・ 図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について考察できるようにする。【4 (3)】
図形を構成する要素やそれらの関係に着目し、ひし形の作図の仕方について、筋道を立てて考えることができるようにすることが重要である。
指導に当たっては、例えば、本設問のように、ひし形の意味や性質を基に、コンピュータを用いてひし形を作図する活動が考えられる。その際、正方形とひし形の同じところや違うところを考える場合は、辺の長さや角の大きさに着目できるようにすることが大切である。

C 変化と関係

- ・ 割合と基準量から、比較量を求めることができるようにする。【2 (2)】
問題場面から、基準量、比較量、割合の関係を捉えることができるようにすることが重要である。
指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、飲み物の量と果汁の割合から、果汁の量を求める活動が考えられる。その際、(基準量) \times (割合) = (比較量)などの言葉の式だけでなく、自分にとって分かりやすい図をかいて数量の関係を捉え、その数量の関係から比較量を求める式を立てることができるようにすることが大切である。
- ・ 日常の具体的な場面に対応させながら、割合について理解できるようにする。【2 (3)】
日常の具体的な場面に対応させながら、飲み物の量に対する果汁の量の割合が、飲み物の果汁の濃さを表していることを理解することが重要である。その際、飲み物を分けても、果汁の濃さは変わらないという生活経験を想起できるようにすることが大切である。
指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、果汁が含まれた飲み物を二つに等しく分けても、果汁の濃さは変わらないという生活経験を想起しながら、果汁の割合は変化しないと判断する活動が考えられる。その際、下の図のように、生活経験を基にした判断と、果汁の割合を計算で求めた結果を関連付けて考えることができるようにすることが大切である。

D データの活用

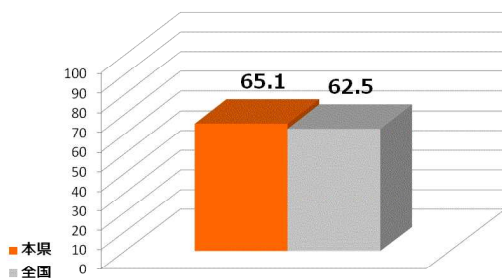
- ・ 分類整理されたデータについて、目的に応じて筋道を立てて考察できるようにする。【3 (2)】
分類整理されたデータについて、目的に応じて筋道を立てて考察できるようにすることが重要である。
指導に当たっては、例えば、自分の学級で行うお楽しみ会の遊びを二つ決める場合、希望する人数が多い遊びに決める方法の他に、より多くの人の希望が一つは通るように遊びを決める

方法で、遊びを決める活動が考えられる。その際、一つの遊びを決めて、その遊びを希望していない児童が最も多く希望している遊びを調べ、選んだ遊びが一人でも多くの児童の希望が通っているか確かめることができるようにすることが大切である。このように、目的に応じて筋道を立てて考察できるようにすることが大切である。

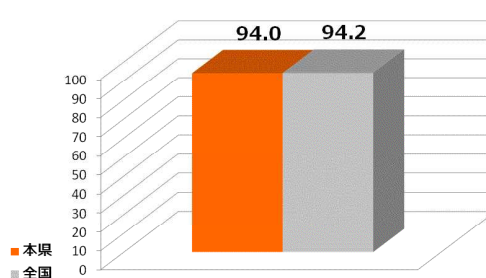
5 児童質問紙調査の結果から見える本県児童の状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童の割合(%)】

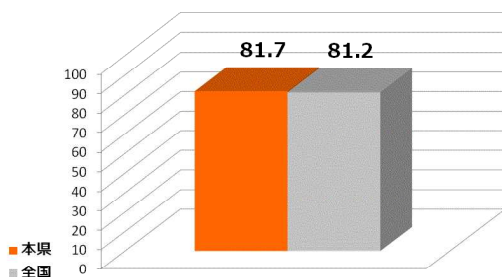
【(53) 算数の勉強は好きですか】



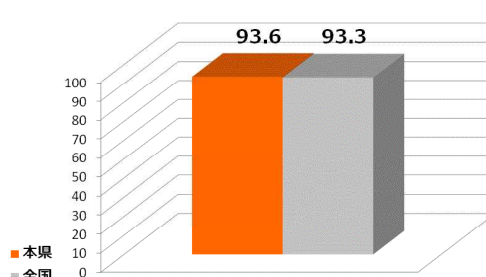
【(54) 算数の勉強は大切だと思いますか】



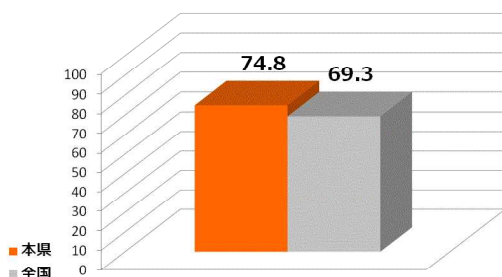
【(55) 算数の授業の内容はよくわかりますか】



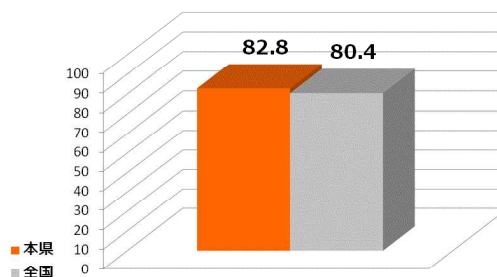
【(56) 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立と思いますか】



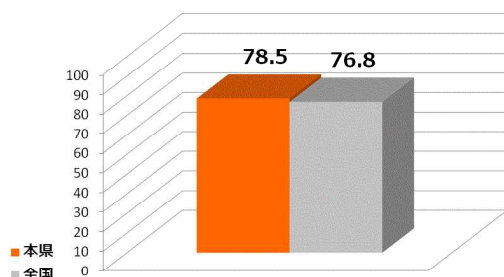
【(57) 算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか】



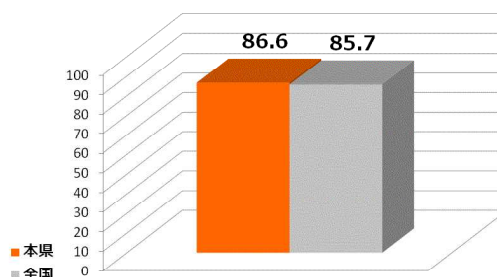
【(58) 算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか】



【(59) 算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか】



【(60) 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか】

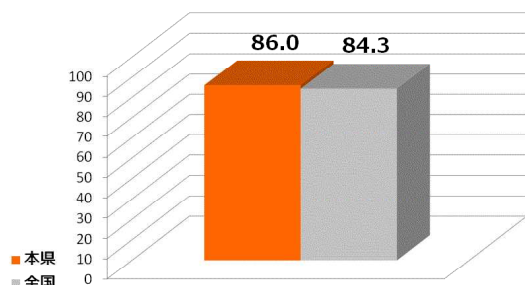


- 算数に関する児童の質問紙調査の結果は、全国平均を上回るか同程度である。
 □児童の算数に対する興味・関心や授業の理解度等は良好な状況にある。
 □算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える児童の割合が8割を上回っている状況であり、主体的に学習に取り組んでいる傾向にある。

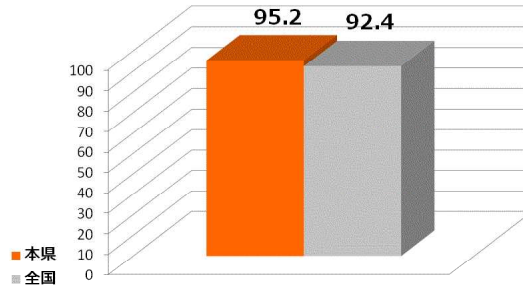
6 学校質問紙調査の結果から見える算数の指導状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した学校の割合 (%)】

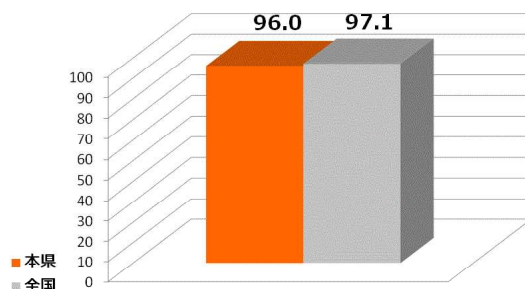
【(46) 実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか】



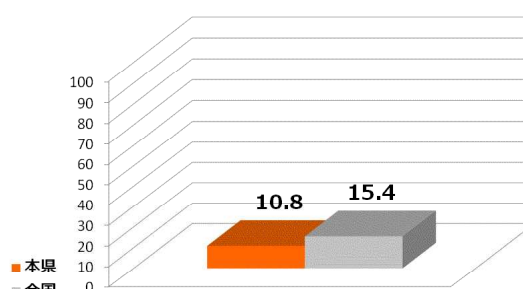
【(47) 具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行いましたか】



【(48) 公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫していますか】



【(49) 調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度に、教科担任制を実施していましたか】



- 実生活における事象との関連を図った授業については、前回調査より1.6ポイント増加し、全国平均を1.7ポイント上回っている。
- 操作などの体験を伴う学習を通して、実感を伴った理解をする活動については、前回調査より2.6ポイント増加し、全国平均を2.8ポイント上回っている。
- 公式やきまり、計算の仕方等の指導で、児童がわけを理解できる工夫しているかについては、前回調査より2ポイント減少し、全国平均を1.1ポイント下回っている。
- 教科担任制の実施については、前回調査より5.3ポイント増加したが、全国平均と比較すると4.6ポイント下回っている。令和3年度の5学年算数科の教科担任制の実施は、県内で10.8ポイントであった。

7 指導改善のポイント

(1) 各領域について《令和4年度 全国学力・学習状況調査 報告書より》

A数と計算

◆ 目的に合った数の処理の仕方を考えることができるようにする指導の充実

日常生活において、数の大きさを見積もる必要があるときは、目的に応じて数を大きくみたり小さくみたりして、概算できるようにすることが重要である。その際、概数にする方法である切り上げ、切り捨て、四捨五入を用いて計算し、それが適切であるかどうかを判断できるようにすることが大切である。

B図形

◆ 図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質、図形の構成の仕方について考察できるようにする指導の充実

図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質について理解し、それを基に図形の構成の仕方について考察できるようにすることが重要である。その際、辺の長さや角の大きさなどに着目して、図形の意味や性質を基に、作図の仕方を考えたり、作図の仕方を筋道を立てて説明したりすることができるようにすることが大切である。

C変化と関係

◆ 基準量、比較量、割合の関係について理解できるようにする指導の充実

割合を用いて問題を解決するためには、問題場面の数量の関係を捉え、基準量、比較量、割合の関係について理解し、数学的に表現・処理できるようにすることが重要である。その際、日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりすることができるようにすることが大切である。

◆ 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、未知の数量を求めることができるようにする指導の充実

伴って変わる二つの数量を見だし、一方の数量に伴って他方の数量がどのように変化するかに着目して、未知の数量を求めることができるようにすることが重要である。その際、表に整理して、二つの数量の関係に着目できるようにすることが大切である。また、二つの数量から割合を求めることができるだけでなく、示された割合になる二つの数量を考えることができるようにすることも大切である。

Dデータの活用

◆ 目的に応じて、表やグラフを読み取り、データの特徴や傾向を捉え考察できるようにする指導の充実

日常生活の問題を解決するために、目的に応じて、必要なデータを収集し、観点を決めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目して考察できるようにすることが重要である。その際、分類整理されたデータについて、筋道を立てて考察できるようにすることが大切である。また、複数のグラフから適切なグラフを選択し、データの特徴や傾向を読み取る

ことができるようにすることが大切である。

(2) 質問紙調査の結果を踏まえて

児童質問紙

◆ 主体的・対話的で深い学びのある授業の充実

「学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える」

「解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」

「問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」

「公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」

上記のような回答をしている児童は、教科平均正答率で高い傾向が見られる。本県の結果でも、全国平均を約5%程度上回っている傾向にある。

今後も児童が「数学的な見方・考え方」を自在に働かせながら、問題を解決するよりよい方法を見いだしたり、意味の理解を深めたり、概念を形成したりするなど、主体的・対話的で深い学びのある授業の充実に取り組んでいくことが大切である。

学校質問紙

◆ 公式やきまり、計算の仕方等のわけを理解できるように工夫して指導

「調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫している」と回答している学校の割合は、96.0%であり、全国平均を1.1%下回っている。県平均は高い傾向にあるが、前年度から2.0%減少し、全国平均を下回る結果となった。

公式やきまり、計算の仕方等のわけを理解できるように工夫して指導するためには、数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するだけにとどまらず、日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養っていくことが大切である。「目的に応じて、数、式、図、表、グラフ等を活用しつつ、根拠を基に筋道を立てて考え、問題解決の過程を振り返るなどして既習の知識及び技能等を関連付けながら、統合的・発展的に考える」という「数学的な考え方」を働かせる授業を行っていくことが重要である。

〈令和3年度県学習状況調査を踏まえて（算数）〉

令和3年度県学習状況調査実施報告書において、本県の小学生は「A数と計算」と「C変化と関係」の領域で課題があると分析した。

「A数と計算」については、問題場面に着目し、解決の目的に合った数の処理の仕方を考える力に課題があり、日常生活の目的に合った数の処理をする際に「どの位までの概数にするのか」「切り上げるのか、切り捨てるのか、四捨五入するのか」ということを、児童自らが判断する場面や、それが適切であるかどうかを振り返る場面を設けることが大切であるとした。

「C変化と関係」については、割合の意味を理解し、一方を基準量としたときにもう一方の数量がどれだけ相当するかという数量の関係を表現する力、図や表に表された表現の中から基準量と比較量を読み取って割合を求める力に課題があり、日常の事象における二つの数量の関係どうしを割合で比べさせ、割合の意味を理解させることが大切であり、対話的な学びを通して、問題としている場面を図や表式で表したり、表された表現の中から基準量と比較量を読み取って割合を求めたりすることも大切であるとした。

【令和3年度学習状況調査実施報告書より】

令和4年度全国学力・学習状況調査では、「A数と計算」の領域の県の平均正答率は、70.9%と全国平均を1.1%上回っている。しかし、【1(4)】 85×21 の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ問題では、31.4%と全国平均を3.4%下回った。概数にして見積もる際には、概数にして計算した結果と、実際の数の積との大小関係について話し合うなど、目的に合った数の処理の仕方を考えることができるよう今後も指導を続けていく必要がある。

「C変化と関係」の領域の県の平均正答率は、50.8%と全国平均を0.5%下回っている。その中でも、【2(3)】果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの果汁の割合について正しいものを選ぶ問題では、17.4%と全国平均を3.5%下回った。割合として表される数量に関わる生活経験を豊かにし、日常生活の事象において、二つの量の関係を表す数である割合が変わらないことを豊富に体感させることが大切である。また、数や式を日常場面に関連付けて理解できるように指導することも大切である。

※授業改善の具体例

以下の資料を併せて参照してください。

- ・令和3年度学習状況調査実施報告書
- ・令和4年度全国学力・学習状況調査報告書
- ・令和4年度全国学力・学習状況調査報告書の結果を踏まえた授業アイデア例

IV 理科

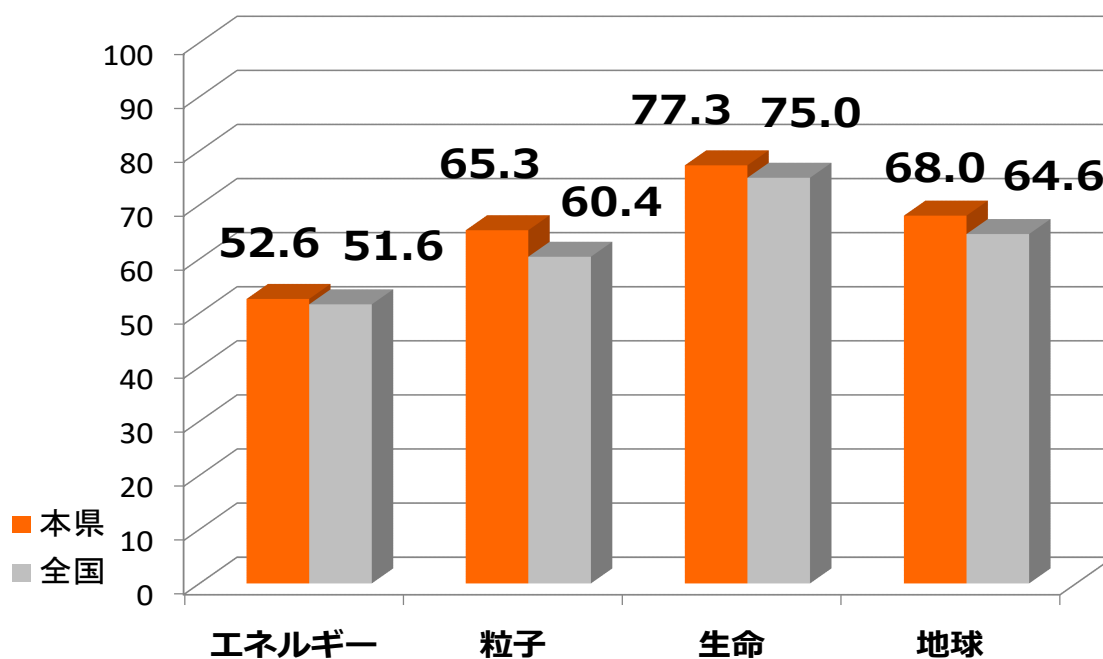
1 教科全体の結果

理科の平均正答率 (%)		
青森県	全国平均との差	平成30年度全国平均との差
66	+2.7	+2

□ 理科全体としては、本県は、全国平均と同程度である。

2 領域別の正答率

分類	区分	平均正答率 (%)		
		青森県	全国との差	平成30年度全国との差
学習指導要領の領域	「エネルギー」	52.6	+1.0	+3.8
	「粒子」	65.3	+4.9	+3.3
	「生命」	77.3	+2.3	+0.9
	「地球」	68.0	+3.4	+1.2
評価の観点	知識・技能	67.6	+5.1	
	思考・判断・表現	64.9	+1.2	
	主体的に学習に取り組む態度			



□ 全ての領域において、全国平均と同程度である。

3 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の 区分・領域		評価の観点 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	問題形式			正答率(%)		
			A区分	B区分		選択式	短答式	記述式	青森県 (公立)	全国 (公立)	県と 全国の 差
			「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域 「生命」を柱とする領域 「地球」を柱とする領域							
1 (1)	見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のもの であるかを選ぶ	問題を解決するために必要な観察の視点を基に、 問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考え をもつことができる		2B (1)P (4)R		○	○		93.5	92.9	0.6
1 (2)	自分の観察の記録と新たに追加された他者の観察 の記録を基に、問題に対するまとめを見直して書 く	自分で行った観察で収集した情報と追加された情 報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善 し、自分の考えをもち、その内容を記述できる		2B (1)P (4)R		○	○		71.7	67.5	4.2
1 (3)	昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテント ウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を 選ぶ	昆虫の体のつくりを理解している		2B (1)P (4)		○	○		78.0	73.1	4.9
1 (4)	資料を基に、カブトムシは育ち方と主な食べ物の 特徴から二次元の表のどこに当てはまるかを選 ぶ	提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈 し、自分の考えをもつことができる		2B (1)P (9)		○	○		77.5	76.1	1.4
1 (5)	育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたこ とを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見だし て選ぶ	観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分 析して、解釈し、自分の考えをもつことができる		2B (1)P (9)		○	○		66.1	65.5	0.6
2 (1)	一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名 称を書く	メスシリンダーという器具を理解している		4A (2)P (9)		○	○		79.9	67.8	12.1
2 (2)	水50mLをはかり取る際に、メスシリンダーに 入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイト で加える水の量を選ぶ	メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている		4A (2)P (9)		○	○		71.8	70.0	1.8
2 (3)	水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、そ れぞれの水溶液が凍る温度を見だし、問題に対 するまとめを選ぶ	自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題 に対するまとめを検討して、改善し、自分の考え をもつことができる		4A (2)P (9) 2A (1)P (9)R		○	○		61.0	62.8	-1.8
2 (4)	凍った水溶液について、試してみたいことを基 に、見いだされた問題を書く	自然の事象・現象から得た情報を、他者の気付き の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、 その内容を記述できる		4A (2)P (9) 2A (1)P (9)R		○	○		40.4	39.3	1.1
3 (1)	光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反 射させた日光を当てることができる人を選ぶ	日光は直進することを理解している		3A (2)P (9)		○	○		29.0	27.8	1.2
3 (2)	実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り 出しやすく整理された記録を選ぶ	問題に対するまとめを導きだすことができるよう に、実験の過程や得られた結果を適切に記録して いる		3A (3)P (9) (4)		○	○		73.5	74.4	-0.9
3 (3)	鏡ではね返した日光の位置が変化していることを 基に、継続して同じ条件で実験を行うために、実 験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く	自分で発想した実験の方法と、追加された情報を 基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考 えをもつことができる		3A (2)P (9) (4)R		○	○		70.7	68.9	1.8
3 (4)	問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果 を基にして書く	実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈 し、自分の考えをもち、その内容を記述できる		3A (3)P (9) (4)R		○	○		37.0	35.1	1.9
4 (1)	冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまと めを選ぶ	観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈 し、自分の考えをもつことができる		4B (4)P (9)R		○	○		81.7	82.3	-0.6
4 (2)	夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記 録の結果を表したグラフを見通して選ぶ	予想が確かめられた場合に得られる結果を見通し て、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の 考えをもつことができる		4B (4)P (9)R		○	○		66.7	64.5	2.2
4 (3)	結果からいえることは、提示された結果のどこを 分析したものなのかを選ぶ	観察などで得た結果を、結果からいえることの視 点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことが できる		4B (4)P (9)R		○	○		47.5	45.5	2.0
4 (4)	鉄棒に付着していた水滴と水の粒は、何が変化し たものかを書く	水は水蒸気になって空気中に含まれていることを 理解している		4A (2)P (9) 4B (4)P (4)		○	○		73.4	62.0	11.4

4 問題別集計結果の状況

○良好であること

- 「粒子」を柱とする領域
 - ・メスシリンダーという器具を理解している。
【2 (1)】対全国比：+12.1)
 - ・水是水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している。
【4 (4)】対全国比：+11.4)
- 「生命」を柱とする領域
 - ・昆虫の体のつくりを理解している。
【1 (3)】対全国比：+4.9)
 - ・自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。
【1 (2)】対全国比：+4.2)

▼課題であること

- ▼「粒子」を柱とする領域
 - ・自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる。
【2 (3)】対全国比：-1.8)
- ▼「エネルギー」を柱とする領域
 - ・問題に対するまとめを導き出すことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している。
【3 (2)】対全国比：-0.9)
- ▼「地球」を柱とする領域
 - ・観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる。
【4 (1)】対全国比：-0.6)

学習指導に当たって

「エネルギー」

- ・観察、実験などの過程やそこから得られた結果を適切に記録するなど、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けることができるようにする
観察、実験などの過程やそこから得られた結果を適切に記録するなど、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けることができるようにするためには、問題を解決するのに必要な記録内容の検討や確認ができるようにすることが重要である。
指導に当たっては、問題を的確に把握し、何を記録する必要があるかについて検討する場面を設定することが大切である。例えば、「鏡ではね返した日光を重ねるほど、的の温度は高くなるのだろうか」という問題を解決する際に、結果の見通しについて話し合い、必要な記録内容を明らかにする学習活動が考えられる。

「粒子」

- ・ 観察、実験の結果を基にして、予想について検討して、改善し、より妥当な考えをつくりだすことができるようにする

観察、実験の結果を基にして、予想について検討して、改善し、より妥当な考えをつくりだすことができるようにするためには、観察、実験の結果が出た後に、予想と結果について、それらの整合性を調べ、自分の考えをより科学的なものに変容させることができるようにすることが重要である。

指導に当たっては、実験で得られた結果を予想と照らし合わせ考察について検討して、改善し、より妥当な考えをつくりだす場面を設定することが大切である。例えば、「水を温め続けるとどうなるのだろうか」という問題を解決していく中で、「水を温めていくと温度が上がり続け、激しく泡が出る」という予想を基に実験を行い、100℃程度で水温上昇が止まり水温が一定になった際、得られた結果を予想と照らし合わせ、「予想と違って、水を温め続けると、約100℃で温度が上がらなくなり、沸騰する」といった、より妥当な考えをつくりだす学習活動が考えられる。

「生命」

- ・ 観察、実験などの結果について、自分や他者の気づきを基に分析して、解釈し、問題を見いだすことができるようにする

観察、実験などの結果について、自分や他者の気づきを基に分析して、解釈し、問題を見いだすことができるようにするためには、それぞれの気づきを明確にし、差異点や共通点を基に自分の考えをもつことができるようにすることが重要である。

指導に当たっては、それぞれの気づきを明確にし、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす場面を設定することが大切である。例えば、モンシロチョウの卵を見つけ飼育しながら、「モンシロチョウはどのように育つのだろうか」という問題を解決した後、モンシロチョウの観察記録について他の学習や生活経験と比較しながら、「校庭には様々な昆虫がいることを学習したけれど、他の昆虫はどのように育つのだろうか」や「他の昆虫にも卵や蛹のときがあるのかな」といったことから、「昆虫はどのように育つのだろうか」という問題を見いだす学習活動が考えられる。

「地球」

- ・ 観察、実験などで得た結果について分析して、解釈し、より妥当な考えをつくりだすことができるようにする

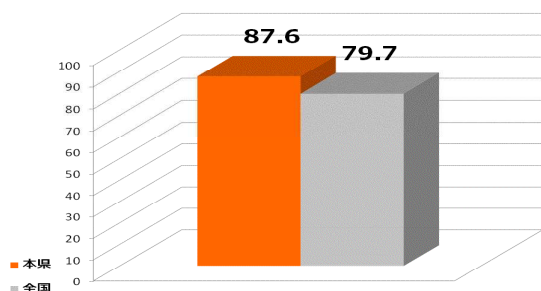
観察、実験などで得た結果について分析して、解釈し、より妥当な考えをつくりだすことができるようにするためには、問題を把握し、観察、実験などの結果と既習の内容や生活経験とを関連付けながら、結果の傾向を捉え、問題に正対した結論を導きだせるようにすることが重要である。

指導に当たっては、例えば、雲の様子と天気の関係について、気象衛星の雲画像やアメダスの雨量情報などを調べ、全国各地の雲の様子と天気の変化を、天気の変化は雲の量と関係があるという既習の内容や天気の変化は多様であるという生活経験と関連付けながら、天気はおよそ西から東に変化していくという問題に正対する結論を導きだす学習活動が考えられる。

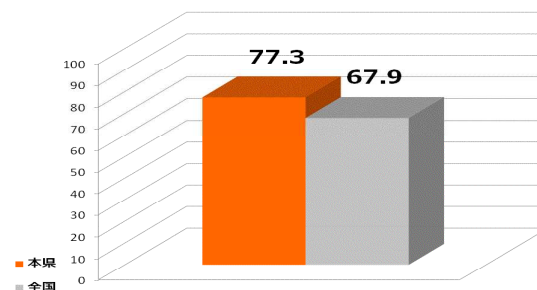
5 児童質問紙調査の結果から見える本県児童の状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童の割合（％）】

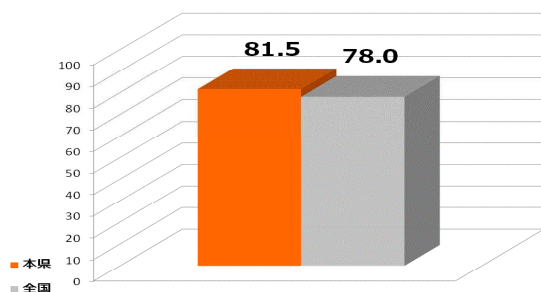
【(61) 理科の勉強は好きか】



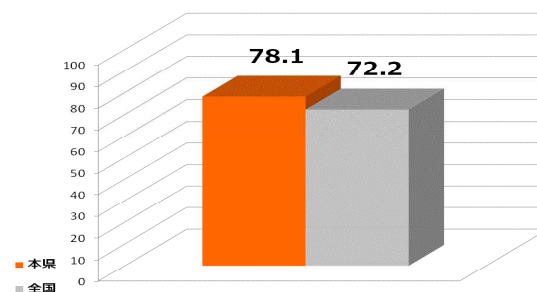
【(64) 理科で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えるか】



【(67) 授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てているか。】



【(69) 観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えているか】

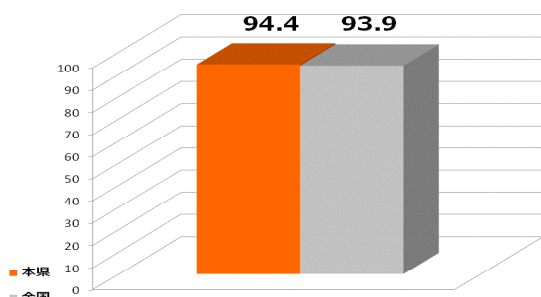


- 理科に関する児童の質問紙調査の結果は、全国平均を全ての項目で上回っている。
- 児童の理科に対する興味・関心や授業の理解度等は良好な状況にあり、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている児童の割合は、全国平均を上回っている。
- 理科で学習したことを、普段の生活の中で活用できないかと考えている児童の割合は、全国平均を上回っている。

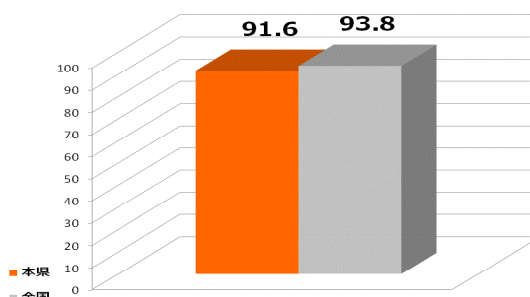
6 学校質問紙調査の結果から見える理科の指導状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した学校の割合（％）】

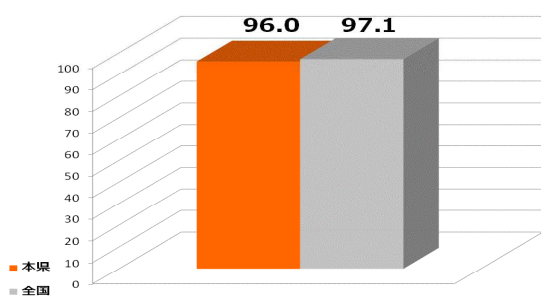
【(50) 調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行ったか】



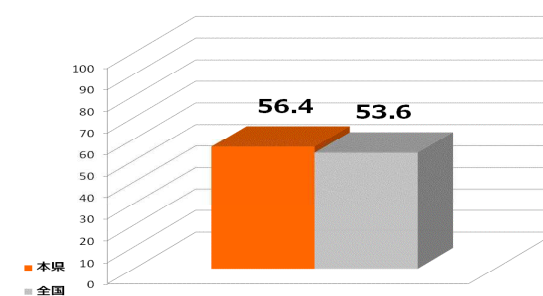
【(52) 調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行ったか】



【(53) 調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行ったか】



【(55) 調査対象学年の児童に対する理科の授業において、前年度に、教科担任制を実施したか】



- 理科の指導方法に関する調査結果は、いずれも全国平均と同程度である。
- 自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができたり、観察や実験の結果を整理し考察したりする指導については、どちらも9割をこえているが、全国平均を下回っている。
- 理科の授業において、前年度に教科担任制を実施していたかについては、全国平均を上回っている。

7 指導改善のポイント

(1) 各領域について《令和4年度 全国学力・学習状況調査 報告書より》

「粒子」

◆ 自然の事物・現象に働きかけて得た事実について、自分や他者の気づきを基に分析して、解釈し、問題を見いだすことができるようにする

- ・ 上記の指導の充実を図るには、自然の事物・現象に働きかけて得た事実について話し合う中で、自分や他者の気づきを捉え、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす場面を設定することが大切である。

例えば、空気の温度による体積の変化について学習した後、「空気は押し縮められるけど、水は押し縮められなかったように、空気と水の性質は違うのかな」、「空気の温度と体積の関係が分かったけれど、水はどのようなのかな」、などと調べたいことについて話し合う中で、「水は空気と同じように、温度を変えると体積は変わるのだろうか」といった問題を見いだす学習活動が考えられる。

「エネルギー」

◆ 観察、実験などで得た結果について分析して、解釈し、より妥当な考えをつくりだすことができるようにする

- ・ 上記の指導の充実を図るには、観察、実験の結果の具体的な数値や、それを分析した内容などを根拠として表現する場面を設定することが大切である。

例えば、問題に対するまとめを行う際に、結果を具体的な数値として学級内で共有し、何を結論の根拠としているのかを明らかにし、より妥当な考えをつくりだす学習活動が考えられる。

◆ 観察、実験などの過程やそこから得られた結果を適切に記録するなど、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けることができるようにする

- ・ 上記の指導の充実を図るには、問題を的確に把握し、何を記録する必要があるかについて検討する場面を設定することが大切である。

例えば、「鏡ではね返した日光を重ねるほど、鏡の温度は高くなるのだろうか」という問題を解決する際に、結果の見通しについて話し合い、必要な記録内容を明らかにする学習活動が考えられる。

「生命」

◆ 観察、実験などの結果について、自分や他者の気づきを基に分析して、解釈し、問題を見いだすことができるようにする

- ・ 上記の指導の充実を図るには、それぞれの気づきを明確にし、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす場面を設定することが大切である。

例えば、モンシロチョウの卵を見つけ飼育しながら、「モンシロチョウはどのように育つのだろうか」という問題を解決した後、モンシロチョウの観察記録について他の学習や生活経験と比較しながら、「校庭には様々な昆虫がいることを学習したけれど、他の昆虫はどのように育つのだろうか」や「他の昆虫にも卵や蛹のときがあるのかな」といったことから、「昆虫やどのように育つのだろうか」という問題を見いだす学習活動が考えられる。

「地球」

◆ 知識をより深く理解できるようにする

- ・ 上記の指導の充実を図るには、問題解決を通して習得した知識を活用して、学習の成果を日常生活との関わりの中で捉え直す場面を設定することが大切である。

例えば、水の状態変化についての問題を見だし、問題を解決する中で習得した知識を活用して、冷たいコップに付着した水滴について、タブレット型端末などで動画や写真などを示し指さしたり線で囲んだりしながら、「コップの外側に付いた水滴は、空気中の水

蒸気がコップの表面で冷やされて液体の水になったものと考えられます。しばらくすると水滴が消えたのは、水滴が蒸発して水蒸気になり、見えなくなったということが考えられます。沸騰しなくても蒸発するのが不思議だと思いました。」などと捉え直し、理解を深める学習活動が考えられる。

◆ 観察、実験などで得た結果について分析して、解釈し、より妥当な考えをつくりだすことができるようにする

- ・ 上記の指導の充実を図るには、結果などから結論を導き出すために必要な数量、変化の大きさなどの特徴を見つけ、自分の考えをもち、それらを話し合う場面を設定することが大切である。

例えば、1日の気温の変化のグラフから、気温の変化の大きい時間帯や小さい時間帯と天気の様子との関係について読み取り、気温の変化と天気との関わりについて話し合う学習活動が考えられる。

(2) 質問紙調査の結果を踏まえて

児童質問紙

◆ 観察や実験の過程を大切にした指導の充実

- ・ 「理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えるか」「理科の授業では、自分の予想をも基に観察や実験の計画を立てているか」「理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えているか」以上の質問について、当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童の割合は、いずれも全国平均を3.5～9.4ポイント程度上回っている。また、「理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている」と回答している児童の方が、理科の平均正答率が高い傾向が見られる。

理科に関する全ての質問事項から、児童の理科に対する興味・関心や授業の理解度等、全体的に良好な状況にあるので、今後も児童が「理科の見方・考え方」を働かせながら、自分の予想を基に観察や実験の計画を立てたり、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返ったりしたりするとともに、理科で学習したことが普段の生活の中で活用できないかを考える指導を継続していくことが大切である。

学校質問紙

◆ 自ら考えた予想や仮説を基に、観察、実験の計画を立てたり、観察や実験の結果を整理し考察したりする指導の充実

- ・ 「調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、自ら考えた予想や仮説を基に、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行った」と回答している学校の割合は91.6%であるが、全国平均を2.2ポイント下回っている。

児童が問題を解決するために、自ら考えた予想や仮説を基に観察、実験の計画を立てたり、その結果を整理し考察したりすることができるような指導を行っていくことが重要である。

〈令和3年度県学習状況調査を踏まえて（理科）〉

令和3年度県学習状況調査実施報告書において、本県の小学生は「粒子」の領域と「観察、実験などに関する基本的な知識・技能」について課題があると分析した。

「粒子」については、観察、実験の過程において、水の状態変化について考えたり、話し合ったりする活動が不足していることに加え、既習事項を振り返りながら総合的に思考し判断する活動も不足していることに課題が見られた。今後は、各単元で学んだ水の状態変化に関する知識及び技能を日常生活と関連付けて振り返り、総合的に思考させる場面を設定することが必要であり、また、それらの知識及び技能を活用できたことを認め、理科の学びの有用性を感じさせていくことが大切であるとした。

「観察、実験などに関する基本的な知識・技能」については、様々な場所や場面で温度測定をする経験が不足していることや、デジタル温度計の利用などにより、棒温度計等の基本的な使い方が定着していないことに課題が見られた。今後は、他の単元や他教科等とも関連させながら実験器具を扱える場面で積極的に使用し、実験器具を正しく使用する必要性や有用性を実感させたり、使い方を振り返らせたりして、知識及び技能を定着させる必要があり、また、パフォーマンステストを行うなど、一人一人に技能が身に付いているかを確認することも大切であるとした。

【令和3年度学習状況調査実施報告書より】

令和4年度全国学力・学習状況調査では、「粒子」領域の県の平均正答率は、65.3%と全国平均を4.9ポイント上回っているが、中でも水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見だし、問題に対するまとめを選ぶ問題の正答率は、61.0%と全国平均を1.8ポイント下回っていた。自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができるようにするために、今後も指導を続けていく必要がある。

「観察、実験などに関する基本的な知識・技能」に当たる問題の県の平均正答率は、29%から79.9%となっており、全国平均と比較しほとんどの問題が全国平均と同程度か上回っていたが、実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ問題については全国平均を0.9ポイント下回っている。問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を整理し、適切に記録していくことができるようにする指導が大切である。

※授業改善の具体例

以下の資料を併せて参照してください。

- ・令和3年度学習状況調査実施報告書
- ・令和4年度全国学力・学習状況調査報告書
- ・令和4年度全国学力・学習状況調査報告書の結果を踏まえた授業アイデア例

V 質問紙調査

質問紙調査の結果については、以下の視点で分析を行った。

- ・良好な状態を把握するために、
 - 全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かったか。
 - 望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）か。
- ・課題となっている状況を把握するために、
 - ▼全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かったか。
 - ▼望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）か。

I 児童質問紙調査の結果と今後の対策

※★印の項目に肯定的に回答した児童は、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

(1) 基本的な生活習慣等

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
1 朝食を毎日食べているか 【「している」「どちらかといえば、している」の合計】	94.7	+0.3	-0.8 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

□ 朝食を毎日食べている児童の割合は、全国平均とほぼ同程度である。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
5 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をするか（★） 【「3時間以上」の割合】	30.3	-0.4	-7.7 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

□ 平日に3時間以上、テレビゲームをする児童の割合は、全国平均と同程度であるが、令和3年度調査よりも減少している。しかし、本県小学校第5学年児童の約3分の1程度が、平日に3時間以上、テレビゲーム等に時間を費やしている。

(参考)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
6 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間は除く）をするか（★） 【「3時間以上」の割合】	20.0	+0.3	新規

□ 平日に3時間以上、テレビゲームをする児童の割合は、令和3年度と比べ減少しているものの、本県小学校第5学年児童の5分の1程度が、平日に3時間以上、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴に時間を費やしている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレット端末の活用を通して、その適切な使用方法について理解を深めさせる。
- ◆ 道徳や特別活動など、さまざまな機会を通じて、具体的な事例を示し、基本的な生活習慣や節度ある生活を身に付けさせるようにする。
- ◆ 保護者集会や各種通信等を通じて、基本的な生活習慣や節度ある生活を身に付けさせるよう、家庭との連携を一層図る。

(2) 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
11 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦しているか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	77.7	+5.2	+0.9

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していると考えている児童は全国平均を上回っており、令和3年度調査と同程度である。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
13 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	97.3	+0.5	+0.2
15 人の役に立つ人間になりたいと思うか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	95.5	+0.4	-0.8
18 友達と協力するのは楽しいと思うか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	94.5	+0.5	-0.5

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと考えている児童の割合、人の役に立つ人間になりたいと考えている児童の割合及び友達と協力することを楽しいと考えている児童の割合は極めて高い。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ あらゆる機会を通じて、「いじめは人間として絶対に許されない」という意識を徹底するとともに、引き続き、児童同士の心の結び付きを深め、社会性を育む活動を推進し、いじめの未然防止を図る。
- ◆ 学級内や学校行事で一人一人に役割を与えたり、活躍できるような活動を取り入れたりするなど自己肯定感をもたせる指導や自己有用感をもたせる活動を設定し、今後も児童のよさをより一層積極的に評価していく。
- ◆ 学習規律やきまり、約束を守ることの大切さを今後も継続して指導していくとともに、なぜ大切なのかについて児童に考えさせる指導の充実を図る。

(3) 学習習慣等

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
22 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)(★) 【1時間以上】の割合	64.8	+8.7	-6.3

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

□ 土曜日や日曜日など、学校が休みの日に1時間以上勉強している児童の割合は、全国平均を上回っているが、令和3年度調査よりも減少している。

【望ましい回答の割合が極めて高かった(概ね95%程度)質問:なし】

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
22 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)(★) 【1時間以上】の割合	64.8	+8.7	-6.3

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

【望ましい回答の割合が極めて低かった(概ね50%未満)質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
23 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書しているか 【1時間以上】の割合	16.4	-0.9	+0.1
25 新聞を読んでいるか 【週1回以上】の割合	13.4	-0.4	-1.7

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

▼ 普段、1日当たり1時間以上読書をしたり、新聞を読んだりしている児童の割合は、2割に満たない。

②今後の対策・指導

- ◆ 各教科等の指導として、学習したことが読書活動に発展するような授業展開を工夫する。また、その内容を学級通信等を活用して家庭に情報発信し、読書習慣を身に付けさせるよう連携する。
- ◆ NIE等の取組を活用するなど、授業や家庭学習において児童が新聞に触れたり読んだりする機会を設定する。

(4) 地域や社会に関わる活動の状況等

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
28 地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがあるか 【「よくある」「ときどきある」の合計】	36.1	+5.5	新規

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
29 今住んでいる地域の行事に参加しているか 【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	50.4	-2.3	-7.1

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

▼ 今住んでいる地域の行事に参加している児童の割合は、全国平均及び令和3年度を下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

◆ 地域の人たちや関係機関の協力を仰ぎながら、引き続き、次のようなことを心がけるようにする。

地域や社会との関わりでの質的な充実を図るために

- 各教科等の学習において、地元に関する新聞記事等を取り扱うなど、適切な題材や場面で地域や社会とのつながりをもたせた学習指導を行う。
- 総合的な学習の時間の学習素材として、地域の行事や祭りなどの地域に関する内容を取り扱い、自分が住んでいる地域に対する興味・関心をもたせるようにする。具体的には、地域の人たちと関わる場を設定したり、地域の自慢できることを検討したりする学習活動を取り入れ、地域のよさを児童自ら再確認することによって、地域の一員としての自覚や参画する意識を育てるようにする。また、地域の人たちとの触れ合いは、児童の視野を広げ、自己の将来を具体的に描くことや学習に対する意欲付けにつながる効果も期待できることから、地域の人材バンクの作成に努める。
- 各教科等で学習した日本や自分が住んでいる地域のことを、外国語活動・外国語科の授業における言語活動で活用する。

(5) ICTを活用した学習状況

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
36 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うか 【「役に立つと思う」「どちらかといえば、役に立つと思う」の合計】	95.8	+1.4	+0.4

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと考えている児童の割合は極めて高い。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

(参考)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
32 5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用したか 【週1回以上の割合】	79.8	-3.4	新規
33 学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用したか 【週1回以上の割合】	72.6	-3.5	新規
34 学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用したか 【週1回以上の割合】	46.2	-3.2	新規
35 学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用したか 【週1回以上の割合】	41.8	-3.4	新規

- ▼ 学校の授業において、児童がPC・タブレットなどのICT機器を週1回以上使用している児童の割合は、全国平均をやや下回っている。

②今後の対策・指導

- ◆ PC・タブレットなどのICT機器の活用には、引き続き、次のようなことを心がける。

「令和の日本型学校教育」の構築に向けたICTの活用に関する基本的な考え方

- カリキュラム・マネジメントを充実させ、各教科等で育成を目指す資質・能力等を把握した上で、ICTを「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に生かす。
- 端末の活用を「当たり前」のこととし、児童自身がICTを自由な発想で活用するための環境を整備し、授業づくりに反映させる。
- ICTの特性を最大限活用した、不登校や病気療養等により特別な支援が必要な児童に対するきめ細かな支援、個々の才能を伸ばすための高度な学びの機会を提供する。
- ICTの活用と少人数によるきめ細かな指導体制の整備を両輪とした、個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指す。

(6) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

(参考)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
41 5年生までに受けた授業で、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行ったか(★) 【当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	72.9	+4.5	新規

□ 自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行った児童の割合は、全国平均を上回っている。

【望ましい回答の割合が前年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった(概ね95%程度)質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった(概ね50%未満)質問：なし】

②今後の対策・指導

◆ 授業を行うに当たっては、引き続き、次のようなことを心がけるようにする

「主体的・対話的で深い学び」を実現するために

- 単元や内容のまとまりを見通して、児童の各教科等に対する興味・関心が高まるよう工夫するとともに、各教科等の「見方・考え方」を働かせる場面に授業に位置付けた指導計画と各教科等の目標の実現状況を把握するための評価計画を作成し、指導と評価の一体化に取り組む。
- 児童の実態、学習の目標や内容に応じて、ペアやグループなど学習形態を工夫しながら考え意見を発表し合う機会を意図的に設け、どの児童にも自分の考えを相手に伝える体験をさせる。また、友達の意見を共感的に聞けるよう、引き続き、話しやすい学級の雰囲気づくりにも心がけ、児童が自信をもって話すことができるようにする。
- 学校ならではの児童同士の学び合いや、多様な他者と協働して主体的に課題を解決しようとする探究的な学びを充実させる。
- 教科等の特質に応じ、地域・学校や児童の実情を踏まえながら、授業の中で「個別最適な学び」の成果を、「協働的な学び」に生かし、さらにその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる。

(7) 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
46 学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めているか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	80.7	+7.2	-0.1
47 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいるか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	79.0	+5.2	-0.9

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている児童の割合は全国平均を上回っている。

学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる児童の割合は全国平均を上回っている。

【望ましい回答の割合が前年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

2 学校質問紙調査の結果と今後の対策

※★印の項目に肯定的に回答した児童は、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

(1) 生徒指導等

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
8 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしたか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	91.6	+7.0	+0.6

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

児童に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導が9割以上の学校で行われている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
10 学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行ったか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	98.8	+0.1	+1.1 ③
11 スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、児童が相談したい時に相談できる体制となっているか 【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	95.6	+7.2	新規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する取組を行った学校は9割を超えている。
- スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーに対して児童が相談しやすい体制づくりが9割を超える学校で行われている。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 授業を行うに当たっては、引き続き次のようなことを心がけるようにする。

「主体的・対話的で深い学び」を実現するために

- 児童の問い・驚き・気付きを大事にし、児童にとって分かりやすく課題（めあて）を設定する。
- 一人一人の児童に自分の考えをもたせた上で、グループ学習やペア学習等の話し合い活動の場を設定し、考えを深めさせたり広げさせたりする。
- 振り返りの場では、児童の言葉で学習のまとめをするとともに、学習を通して自分ができるようになったことや分かったことなどを話させ、児童自身に学びを自覚させるようにする。
- 児童が勉強に熱意をもって取り組むことができない要因を多面的に探り、分析するとともに、各教科等の授業では、児童にとって興味・関心を高める工夫を心がける。
- 教科等の特質に応じ、地域・学校や児童の実情を踏まえながら、授業の中で「個別最適な学び」の成果を、「協働的な学び」に生かし、さらにその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる。

(2) 学校運営に関する状況、教職員の資質向上に関する状況

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
15-5 ICTを活用した校務の効率化を通じて、教職員の書類作成等その他の事務は軽減したか 【「十分軽減した」「どちらかといえば、軽減した」の合計】	80.0	+6.3	新規
17 児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立しているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	99.6	+5.4	+0.4 ③

21 個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加しているか（オンラインでの参加を含む） 【よくしている」「どちらかといえば、している」の合計	90.4	+14.4	新規
--	------	-------	----

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

(参考)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
14 ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）に取り組んでいるか 【よく取り組んでいる」「どちらかといえば、取り組んでいる」の合計	91.6	-3.4	新規

- ICTを活用した校務の効率化を通じて、教職員の書類作成等その他の事務の軽減に取り組んでいる学校の割合は、全国平均を上回っている。
- ほぼ全ての学校が、児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づいて教育課程を編成・実施、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。
- 個々の教員が、自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している割合は9割を超え、全国平均よりも10ポイント以上高い。
- ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）には、9割を超える学校が取り組んでいる。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
16 指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列しているか 【よくしている」「どちらかといえば、している」の合計	94.8	0.0	+0.3
17 児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立しているか 【よくしている」「どちらかといえば、している」の合計	99.6	+5.4	+0.4
18 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせているか 【よくしている」「どちらかといえば、している」の合計	94.8	+2.5	-1.3
19 授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っているか 【よくしている」「どちらかといえば、している」の合計	99.6	+1.9	+0.7

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- ほぼ全ての学校で、適切に指導計画が作成されるとともに、児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程の編成・実施・評価がなされている。
- ほぼ全ての学校で授業研究や事例研究など、実践的な研修が行われている。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
12 教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行ったか 【月に数回以上の割合】の合計	59.6	-13.6	+2.4 ③
13 教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行ったか 【月に数回以上の割合】の合計	75.2	-8.5	-0.7 ③
15-2 ICTを活用した校務の効率化を通じて、家庭への調査等に関する事務（個人面談等の日程調整や学校評価アンケートなど）は軽減したか 【十分軽減した」「どちらかといえば、軽減した」の合計	50.0	-10.8	新規
15-4 ICTを活用した校務の効率化を通じて、教職員等会議に関する事務は軽減したか 【十分軽減した」「どちらかといえば、軽減した」の合計	65.6	-5.9	新規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ 教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合ったり、ともに問題解決に当たることを行った割合は、全国平均を大きく下回っている。
- ▼ ICTを活用した校務の効率化を通じて、家庭への調査等に関する事務や教職員等会議に関する事務の軽減に引き続き取り組む必要がある。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 引き続き、児童の姿や地域の現状等を踏まえ、教育課程を適切に編成・実施し、評価することが肝要である。
- ◆ ICTを活用した校務の効率化に引き続き取り組む必要がある。

(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
28 授業において、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしたか 【よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計	96.0	-0.8	-1.2 ⑳

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ほぼ全ての学校で、授業において、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするための発問の工夫や指導がなされている。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
24 授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができているか 【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	70.0	-5.1	+2.3

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- ▼ 授業において、児童が自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると捉えている学校の割合は、全国平均を5ポイント程度下回っているが、令和3年度から約2ポイント上昇した。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 引き続き、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けていくことが大切である。
- ◆ 授業において、自らの考えを資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したり、調べたことや考えを文章でまとめたりする活動を通して、コミュニケーション能力や表現力を高める場を意図的に設定することが大切である。

(4) 総合・学級活動・道徳

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
34 学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	95.2	+1.4	-0.9
36 特別の教科 道徳において、児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	95.6	-1.3	-0.5

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- ほぼ全ての学校で、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導が行われている。
- ほぼ全ての学校で、特別の教科 道徳において、児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導が行われている。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 総合的な学習の時間や学級活動、特別の教科 道徳において、児童の課題意識を基にした題材の工夫や、児童が調べたり発表したりするような活動を通して、主体的に学習に取り組む態度を育成することが大切である。

(5) 学習評価

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
38 創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組をしたか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	83.6	-0.5	+7.7

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 児童の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かすような心掛けがなされているとともに、学習評価の妥当性や信頼性を高めるために組織的かつ計画的に取り組んだ学校の割合が前回調査より上昇した。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
37 児童のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしたか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	96.0	-1.0	-1.3

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- ほぼ全ての学校で、児童のよい点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるような指導が行われている。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 学習評価をその後の教員の指導改善や児童の学習改善につなげられるよう取り組んでいる学校が増加しているため、今後も指導と評価の一体化に向けた取組の充実を図ることが大切である。

(6) 国語科の指導方法

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
39 言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	94.8	+0.4	+2.6
40 目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	97.6	+2.2	+1.9

42 目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを広げたりする授業を行ったか 【よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計	95.2	-0.4	+1.5
--	------	------	------

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 多くの学校で、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業が行われており、その割合は前年度を上回っている。
- ほぼ全ての学校において、児童が目的に応じて自分の考えを話したり、必要に応じて質問したりする場の設定が行われており、その割合が前年度を上回っている。
- 多くの学校で、児童が目的に応じて文章を読み、感想や考えをもたせたり、自分の考えを広げたりする場の設定が行われており、その割合が前年度を上回っている。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

(7) 個に応じた指導

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
45 算数の授業で、チーム・ティーチングによる指導を行ったか 【年間の授業のうち、1/2以上の割合で行った」の合計	38.8	+13.9	新規

- 算数の授業で、年間の授業のうち、1/2以上の割合でチーム・ティーチングを行っている学校の割合は、全国平均を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
43 算数の授業で、少人数指導を行ったか 【年間の授業のうち、1/2以上の割合で行った」の合計	16.4	-12.4	新規
44 算数の授業で、習熟度別指導を行ったか 【年間の授業のうち、1/2以上の割合で行った」の合計	10.4	-12.0	新規

- ▼算数の授業で、少人数指導や習熟度別指導を行っている学校の割合は、全国平均を下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
43 算数の授業で、少人数指導を行ったか 【年間の授業のうち、1/2以上の割合で行った」の合計	16.4	-12.4	新規
44 算数の授業で、習熟度別指導を行ったか 【年間の授業のうち、1/2以上の割合で行った」の合計	10.4	-12.0	新規
45 算数の授業で、チーム・ティーチングによる指導を行ったか 【年間の授業のうち、1/2以上の割合で行った」の合計	38.8	+13.9	新規

- 算数の指導において、本県では、少人数指導や習熟度別指導を年間の授業の1/2以

上を行った学校の割合は全国平均を下回っているが、チーム・ティーチングによる指導を通じて個に応じた指導の充実が図られようとしている面が見られる。

(8) 算数・数学科の指導方法

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
49 算数の授業において、教科担任制を実施したか 【実施した】の合計	10.8	-4.6	+5.3 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

算数の授業において、教科担任制を実施した学校の割合は全国平均を下回っているが、前年度よりも増加している。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
47 具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	95.2	+2.8	+2.6
48 公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫したか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	96.0	-1.1	-2.0

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

ほぼ全ての学校で、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動が行われている。

ほぼ全ての学校で、公式やきまり、計算の仕方などを指導する際、そのわけを理解できるように工夫して指導されている。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

(9) 理科の指導方法

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
51 実生活における事象との関連を図った授業を行ったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	94.8	+0.6	+6.9 ③
52 自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行ったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	91.6	-2.2	+7.5 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

実生活における事象との関連付けを図った授業の割合が、前回調査を上回った。

自ら考えた予想や仮説を基に、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行った学校の割合が、前回調査を上回った。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
51 実生活における事象との関連を図った授業を行ったか 【よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計	94.8	+0.6	+6.9 ③⑩
53 観察や実験の結果を整理し考察する指導を行ったか 【よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計	96.0	-1.1	+0.5 ③⑩
54 児童が観察や実験をする授業を1クラス当たりどの程度行ったか 【月1回以上行った」の合計	96.4	+0.4	-0.1 ③⑩

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 実生活における事象との関連を図った授業を行っている学校の割合が、前回調査を上回っている。
- ほぼ全ての学校で、観察や実験の結果を整理し考察する指導が行われている。
- ほぼ全ての学校で、児童が観察や実験する授業が月1回以上行われている。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

(10) ICTを活用した学習状況

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
57 教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会があるか 【ある」「どちらかといえば、ある」の合計	94.0	-0.7	+10.7
58 コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制があるか 【ある」「どちらかといえば、ある」の合計	53.6	-15.7	+15.9

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会があると回答した割合が、前年度を大きく上回った。
- 専門スタッフ（教員を除く）による技術的なサポートを受けることができる学校の割合が、前年度を大きく上回った。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
56 教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板等）のICT機器を活用した授業を1クラス当たり、どの程度行ったか 【週3回以上の割合」の合計	80.0	-6.2	新規

58	コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制があるか 【「ある」「どちらかといえば、ある」の合計】	53.6	-15.7	+15.9 ③
59	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用したか 【「週3回以上の割合」の合計】	72.8	-12.3	新規
60	児童が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童一人一人に配布されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させているか。 【「週3回以上の割合」の合計】	46.8	-15.1	新規
61	児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させているか 【「週3回以上の割合」の合計】	27.2	-12.7	新規
62	教職員と児童がやり取りする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させているか 【「週3回以上の割合」の合計】	28.0	-17.4	新規
63	児童同士がやり取りする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させているか 【「週3回以上の割合」の合計】	20.0	-11.3	新規
65	教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器をどの程度活用しているか 【「よく活用している」「どちらかといえば、活用している」の合計】	38.0	-12.3	新規
66	児童一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を、どの程度家庭で利用できるようにしているか 【「毎日～時々持ち帰り、利用させている割合」の合計】	40.8	-26.1	新規
67-1	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、家庭におけるオンラインを活用した学習にどの程度活用しているか 【「週1回以上の割合」の合計】	20.8	-5.9	新規
67-2	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、児童のスタディ・ログを活用した学習状況等の確認にどの程度活用しているか 【「週1回以上の割合」の合計】	24.8	-7.6	新規
67-3	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、児童の特性・学習進度等に応じた指導にどの程度活用しているか 【「週1回以上の割合」の合計】	40.8	-7.8	新規
67-4	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、不登校児童に対する学習活動等の支援にどの程度活用しているか 【「週1回以上の割合」の合計】	19.2	-18.4	新規

67-5 児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、特別な支援を要する児童に対する学習活動等の支援にどの程度活用しているか 【「週1回以上の割合」の合計】	40.4	-11.2	新規
--	------	-------	----

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

□ コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフがいるなど、技術的にサポートできる体制があると答えた学校の割合が、前年度から大幅に増加したが、依然として全国平均を下回っている。

▼ 授業や家庭学習など、さまざまな場面において児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用させている割合は、全国平均を下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
60 児童が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童一人一人に配布されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させているか 【「週3回以上の割合」の合計】	46.8	-15.1	新規
61 児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させているか 【「週3回以上の割合」の合計】	27.2	-12.7	新規
62 教職員と児童がやり取りする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させているか 【「週3回以上の割合」の合計】	28.0	-17.4	新規
63 児童同士がやり取りする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させているか 【「週3回以上の割合」の合計】	20.0	-11.3	新規
65 教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器をどの程度活用しているか 【「よく活用している」「どちらかといえば、活用している」の合計】	38.0	-12.3	新規
66 児童一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を、どの程度家庭で利用できるようにしているか 【「毎日～時々持ち帰り、利用させている割合」の合計】	40.8	-26.1	新規
67-1 児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、家庭におけるオンラインを活用した学習にどの程度活用しているか 【「週1回以上の割合」の合計】	20.8	-5.9	新規
67-2 児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、児童のスタディ・ログを活用した学習状況等の確認にどの程度活用しているか 【「週1回以上の割合」の合計】	24.8	-7.6	新規
67-3 児童一人一人に配備されたPC・タブレ	40.8	-7.8	新規

ットなどのICT機器について、児童の特性・学習進度等に応じた指導にどの程度活用しているか 【「週1回以上の割合」の合計】			
67-4 児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、不登校児童に対する学習活動等の支援にどの程度活用しているか 【「週1回以上の割合」の合計】	19.2	-18.4	新規
67-5 児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、特別な支援を要する児童に対する学習活動等の支援にどの程度活用しているか 【「週1回以上の割合」の合計】	40.4	-11.2	新規

▼ 児童一人一人に配備されたPC・タブレット等のICT機器を授業で活用している割合は、全国平均を下回っている。

▼ 児童一人一人に配備されたPC・タブレット等のICT機器を家庭で利用できるようにしている割合や不登校児童や特別な支援を要する児童に対する学習活動等の支援に活用している割合は、全国平均を下回っている。

②今後の対策・指導

- ◆ 児童一人一人に配備されたPC・タブレット等のICT機器を、教職員が積極的に授業で活用することが求められる。
- ◆ ICT機器の利用については、家庭の理解と協力を得るとともに、児童の情報モラルの育成についても、組織的・計画的に行う必要がある。

(11) 特別支援教育

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
68 学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の児童に対する授業の中で、児童の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫等）を行ったか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	90.0	-4.3	-6.1

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

▼ 9割の学校で、児童の特性に応じた指導上の工夫が行われているが、前年度を下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 引き続き、特別支援教育について理解を深め、児童の特性に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的・計画的に行う必要がある。

(12) 小学校教育と中学校教育の連携

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
70 近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、 合同して研修を行ったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	51.6	+3.4	-5.3

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

▼ 近隣等の中学校と、授業研究などを合同で研修した割合は、過半数に及ぶものの、前年度に比べ下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
71 令和3年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有したか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	39.6	-4.9	-3.2

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

▼ 令和3年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有した割合は約4割弱にとどまり、全国平均及び前年度を下回っている。

②今後の対策・指導

- ◆ 小中連携に当たっては、新型コロナウイルス感染症の影響がある中においても、引き続き、次のようなことを心掛けるようにする。

小中連携の充実を図るために

- 小・中教職員全体での合同研修会では、授業参観や協議を通して、相互の児童生徒の実態や相互の教育内容、指導方法、指導形態等、現状で行われている教育活動の具体的な取組などを共通理解し、各校の指導のねらい等に対する理解を共有する場にする。
- 小中連携を推進する会議等では、各学校が自校の教育目標の下に進めている教育活動の中での連携の可能性を探ったり、児童生徒の学力に関する課題を共有したりすることで、自校の教育課程の編成に反映させるようにする。
- 研修会や会議等で得た中学校での取組や生徒の現状に関する情報を全教職員で共有し、義務教育9年間を通じて子どもを育てるという意識の下、小学校卒業時までに児童にどのような力を身に付けさせるかという視点も含めて、教育課程の編成に当たるようにする。
- 全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有する機会を設定する。

(13) 家庭や地域との連携

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
73 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	89.2	+7.2	-1.1

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

□ 多くの学校で、教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組が行われている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
72 職場見学を行っているか 【「行っている」と答えた学校の割合】	27.2	-2.7	-15.2

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

▼ 職場見学を行った学校は3割に満たなかった。

②今後の対策・指導

◆ 学校や地域の実情に応じて、引き続き、家庭や地域との連携の充実を図ることが肝要である。

(14) 家庭学習

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
78 児童の家庭学習を促すような働きかけを行ったか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	98.4	+6.0	-0.2
79 家庭学習の取組として、学校では、児童が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	94.8	+5.1	-0.1

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

□ ほぼ全ての学校で、家庭学習の充実に関する取組が行われている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
77 家庭学習の取組として、学校では、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしたか 【「よく参加している」「参加している」の合計】	100	+3.5	+0.8
78 児童の家庭学習を促すような働きかけを行ったか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	98.4	+6.0	-0.2
79 家庭学習の取組として、学校では、児童が行った家庭学習の課題について、その後の教	94.8	+5.1	-0.1

員の指導改善や児童の学習改善に生かしたか 【よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計		
--	--	--

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 県内全ての学校で、家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしている。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 家庭学習は、学習したことを児童に定着させるためには欠かせないものであり、引き続き、家庭学習の課題の与え方について、学校の児童の実態を考慮し、学年ごとの基本的な学習時間、教科ごとの学習方法等について教職員間で共通理解を図るなどの取組を継続する。

(15) 全国学力・学習状況調査の結果等の活用

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
80 令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、学校全体で教育活動を改善するために活用したか 【よく行った」「行った」と答えた学校の割合】	95.2	-0.7	+4.2
81 地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っているか 【よく行っている」「どちらかといえば、行っている」の合計】	94.0	+2.3	-0.1

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 全国学力・学習状況調査の結果について、学校全体で教育活動を改善するために活用している学校の割合が上昇している。
- 地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている割合は、全国平均を上回っている。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
82 令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行ったか 【よく行った」「行った」と答えた学校の割合】	76.8	-9.4	-2.7 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を、保護者や地域の人たちに公表や説明をしている学校は7割を超えるものの、全国平均や平成31年度調査結果を下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 全国学力・学習状況調査等の活用については、以下のことを心掛けるようにする。

組織的な取組を推進するために

○調査結果で明らかとなった成果と課題について、保護者参観日の全体会や学校通信等を通じ、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行うとともに、学力向上のための取組について理解と協力を求める。

(16) 新型コロナウイルス感染症の影響

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
I-1 令和3年度の新型コロナウイルス感染症の影響による、調査対象学年の児童に対する、夏季等の長期休業期間の延長または臨時休業の日数（短縮授業・分散登校・学級単位の休業は含まない） 【10日未満】の割合	97.2	+2.5	+89.8
I-2 令和3年度の新型コロナウイルス感染症の影響による、調査対象学年の児童に対する、短縮授業・分散登校の日数（学級単位の実施は含まない） 【10日未満】の割合	89.6	+6.9	+7.9

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 令和3年度の新型コロナウイルス感染症の影響による調査対象学年の児童に対する、夏季等の長期休業期間の延長または臨時休業については、ほぼ全ての学校で10日未満であった。
- 令和3年度の新型コロナウイルス感染症の影響による、調査対象学年の児童に対する、短縮授業・分散等校については、多くの学校で10日未満であった。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
I-1 令和3年度の新型コロナウイルス感染症の影響による、調査対象学年の児童に対する、夏季等の長期休業期間の延長または臨時休業の日数（短縮授業・分散登校・学級単位の休業は含まない） 【10日未満】の割合	97.2	+2.5	+89.8

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
II-1 令和3年度の新型コロナウイルス感染症の影響による長期休業期間の延長、臨時休業、短縮授業、分散登校の期間中、家庭での学習として、教科書による学習（デジタル教科書を含む）を行っていたか 【基本的に全校で実施】「一部の学年、学級で実施」の割合	27.2	-8.8	新規
II-2 令和3年度の新型コロナウイルス感染症の影響による長期休業期間の延長、臨時休業、短縮授業、分散登校の期間中、家庭での学習	34.4	-7.3	新規

として、学校が作成したプリントなどによる学習（電子メールやHPなどを活用して配信する場合を含む）を行っていたか 【基本的に全校で実施】「一部の学年、学級で実施」の割合			
Ⅱ-4 令和3年度の新型コロナウイルス感染症の影響による長期休業期間の延長、臨時休業、短縮授業、分散登校の期間中、家庭での学習として、都道府県や市町村教育委員会が作成した「問題集」・「復習ノート」などの教材を活用した学習（教育委員会のHPで配信されている場合を含む）を行っていたか 【基本的に全校で実施】「一部の学年、学級で実施」の割合	6.0	-13.2	新規
Ⅱ-8 令和3年度の新型コロナウイルス感染症の影響による長期休業期間の延長、臨時休業、短縮授業、分散登校の期間中、家庭での学習として、都道府県や市町村教育委員会が作成した学習動画等を活用した学習を行っていたか 【基本的に全校で実施】「一部の学年、学級で実施」の割合	2.0	-9.0	新規
Ⅱ-11 令和3年度の新型コロナウイルス感染症の影響による長期休業期間の延長、臨時休業、短縮授業、分散登校の期間中、家庭での学習として、同時双方向型オンラインによる学級活動（ホームルームなど）を行っていたか 【基本的に全校で実施】「一部の学年、学級で実施」の割合	20.4	-7.4	新規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ 令和3年度の新型コロナウイルス感染症の影響による長期休業期間の延長、臨時休業、短縮授業、分散登校の期間中、家庭での学習として、教科書による学習（デジタル教科書を含む）を行っていた学校の割合は全国平均を下回っている。
また、学校として統一的に把握していない学校が3校あった。
- ▼ 令和3年度の新型コロナウイルス感染症の影響による長期休業期間の延長、臨時休業、短縮授業、分散登校の期間中、家庭での学習として、学校が作成したプリントなどによる学習（電子メールやHPなどを活用して配信する場合を含む）を行っていた学校の割合は、教科書を使用した学校の割合よりは多いが、全国平均を下回っている。
また、学校として統一的に把握していない学校が2校あった。
- ▼ 令和3年度の新型コロナウイルス感染症の影響による長期休業期間の延長、臨時休業、短縮授業、分散登校の期間中、家庭での学習として、都道府県や市町村教育委員会が作成した「問題集」・「復習ノート」などの教材を活用した学習（教育委員会のHPで配信されている場合を含む）を行っていた学校の割合は、全国平均を大きく下回っているが、教育委員会が作成した「問題集」・「復習ノート」が県全体として少ないことも要因として考えられる。
- ▼ 令和3年度の新型コロナウイルス感染症の影響による長期休業期間の延長、臨時休業、短縮授業、分散登校の期間中、家庭での学習として、都道府県や市町村教育委員会が作成した学習動画等を活用した学習を行っていた学校の割合は、全国平均を下回っているが、教育委員会が作成した学習動画等が少ないことも要因として考えられる。
- ▼ 令和3年度の新型コロナウイルス感染症の影響による長期休業期間の延長、臨時休業、短縮授業、分散登校の期間中、家庭での学習として、同時双方向型オンラインによる学級活動（ホームルームなど）を行っていた学校の割合は、全国平均を下回っている。今後は、児童一人一人に配備されたICT端末を活用し、同時双方向型オンラインによる学級活動に取り組むことが肝要である。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、今後は児童一人一人に配備されたICT端末を活用した取組を一層充実させる必要がある。
新型コロナウイルス感染症の影響下においても、児童一人一人に学習機会と学力を保障し、個別最適な学びが進められるよう、これまでできなかった学習活動を実施したり、家庭等学校外での学びの充実に取り組むことが肝要である。
- ◆ ICTの活用に向けて、教員の活用指導力が向上するよう、学校全体で活用の推進を図ることが大切である。